

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	平成28年 3月 3日
【発行者名】	ラッセル・インベストメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼CEO ジョン・アール・ムーア
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂七丁目3番37号 プラス・カナダ
【事務連絡者氏名】	小室 絵美
【電話番号】	03-5411-3500
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	ラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース（米ドル円ヘッジ） ラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース（為替ヘッジなし）
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	「Aコース（米ドル円ヘッジ）」、「Bコース（為替ヘッジなし）」ともに 5,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

ラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース（米ドル円ヘッジ）

ラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース（為替ヘッジなし）

（以上を総称して「当ファンド」または個別に「各ファンド」ということがあります。また、「ラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース（米ドル円ヘッジ）」を「Aコース（米ドル円ヘッジ）」または「Aコース」、「ラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース（為替ヘッジなし）」を「Bコース（為替ヘッジなし）」または「Bコース」ということがあります。）

(2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託（契約型）の受益権（以下「受益権」といいます。）です。

なお、当初元本は1口当たり1円です。

当ファンドでは、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付、または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

当ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社であるラッセル・インベストメント株式会社（以下「委託会社」といいます。）は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(3)【発行（売出）価額の総額】

各ファンド5,000億円を上限とします。

(4)【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額 とします。

「基準価額」とは、純資産総額（信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および信託約款に規定する借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。以下同じ。）を計算日における受益権総口数で除して得た額をいいます。ただし、便宜上1万口当たりの価額で表示されることがあります。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

基準価額については、販売会社または下記の照会先までお問い合わせください。また、基準価額は、原則として計算日（委託会社の営業日）の翌日付の日本経済新聞朝刊に略称（〔ラッセル〕の「新興国増配A」、「新興国増配B」）として掲載されます。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887（フリーダイヤル）（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ・アドレス> <http://www.russell.com/jpin/>

(5)【申込手数料】

3.78%（税抜3.5%）を上限として販売会社が定める申込手数料率を、お申込口数、お申込金額等に応じて、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に乗じて得た額が申込手数料となります。

消費税および地方消費税に相当する金額（以下「消費税等相当額」といいます。）を含みます。なお、税法が改正された場合等には、消費税等相当額が変更になることがあります。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合には、申込手数料はかかりません。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

(6)【申込単位】

販売会社が定める単位とします。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合は、1口単位とします。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

(7) 【申込期間】

平成28年3月4日から平成28年9月2日までです。

平成28年9月3日以降の申込期間については、事前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

販売会社において取得申込みの取扱いを行います。

なお、販売会社によっては、「Aコース（米ドル円ヘッジ）」もしくは「Bコース（為替ヘッジなし）」のどちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

販売会社については、下記の照会先までお問い合わせください。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887（フリーダイヤル）（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ・アドレス> <http://www.russell.com/jpin/>

(9) 【払込期日】

取得申込者は、原則として、販売会社が定める日までに申込代金を販売会社に支払うものとします。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

各取得申込受付日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、販売会社より委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

「申込代金」とは、発行価格に申込口数を乗じた金額に、申込手数料（消費税等相当額を含みます。）を加算した金額をいいます。

(10) 【払込取扱場所】

取得申込者は、取得申込みの販売会社に申込代金を支払うものとします。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

(11) 【振替機関に関する事項】

当ファンドの受益権の振替機関は下記のとおりです。

株式会社 証券保管振替機構

(12) 【その他】

申込方法

(a)取得申込者は、販売会社において取引口座を開設のうえ、取得申込みを行うものとします。

(b)販売会社によっては、「Aコース（米ドル円ヘッジ）」もしくは「Bコース（為替ヘッジなし）」のどちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

(c)当ファンドには、分配時に収益分配金を受け取る「一般コース」と、収益分配金が、税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。なお、販売会社によってはどちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

(d)「自動けいぞく投資コース」よりお申込みされる場合、取得申込者は、あらかじめ販売会社との間で自動けいぞく投資約款に従い収益分配金再投資に関する契約（以下「自動けいぞく投資契約」といいます。）を締結するものとします。なお、当該契約については、別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約または規定が用いられることがあり、この場合は当該別の名称に読み替えるものとします。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

申込受付不可日

ニューヨーク証券取引所およびロンドン証券取引所のいずれかの休業日は、スイッチングを含め、取得申込みの受付は行いません。申込受付不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

取扱時間

原則として、各営業日 の午後3時までに販売会社が受付けた取得申込みを、当日の受付分とします。この時刻を過ぎて行われる取得申込みは、翌営業日 の取扱いとなります。

上記の「申込受付不可日」を除きます。

スイッチング

「Aコース（米ドル円ヘッジ）」と「Bコース（為替ヘッジなし）」との間でスイッチング（「Aコース（米ドル円ヘッジ）」または「Bコース（為替ヘッジなし）」いずれかのファンドを換し

た場合の手取金をもって、その換金の申込受付日に、もう一方のファンドの取得申込みを行うことをいいます。以下同じ。)ができます。

スイッチングにより取得申込みをする場合のファンドの発行価格は、取得申込受付日の翌営業日¹の基準価額とします。

ただし、販売会社によってはスイッチングの取扱いを行わない場合があります。

スイッチングにより換金されるファンドについては、通常の換金と同様に信託財産留保額および税金²がかかりますので、ご注意ください。

1 前述の 申込受付不可日を除きます。

2 税金については、「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」をご参照ください。

取得申込みの受付の中止、既に受付けた取得申込みの受付の取消

金融商品取引所 等における取引の停止(個別銘柄の売買停止等を含みます。)、決済機能の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情(実質的な投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等)があるときは、委託会社の判断により、取得申込みの受付を中止することおよび既に受付けた取得申込みの受付を取消場合があります。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。

日本以外の地域における発行

該当事項はありません。

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、前述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取り扱われるものとします。当ファンドの収益分配金、償還金、換金代金は、社振法および前述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

<ファンドの目的>

当ファンドは、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

<信託金の限度額>

委託会社は、受託会社と合意のうえ、各ファンドの合計で1,000億円を限度として信託金を追加することができます。なお、委託会社は、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

<基本的性格>

当ファンドが該当する一般社団法人投資信託協会による商品分類および属性区分は以下のとおりです。

商品分類表（各ファンド共通で、該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単体型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単体型	国内	株式
追加型	海外	債券
	内外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

《商品分類の定義》

追加型：

一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ、従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

海外：

目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

株式：

目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

属性区分表（各ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。）

「Aコース（米ドル円ヘッジ）」

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
--------	------	--------	------	-------

株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル		
	年2回	日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年4回	北米	ファミリー ファンド	あり ()
	年6回(隔月)	欧州		
不動産投信	年12回(毎月)	アジア		
		オセアニア		
その他資産 (投資信託証券(株式 一般))	日々	中南米	ファンド・ オブ・ ファンズ	なし
		アフリカ		
		中近東(中東)		
資産複合() 資産配分固定型 資産配分変更型	その他()	エマージング		

「Aコース(米ドル円ヘッジ)」は原則として対米ドルで為替ヘッジを行います。米ドルと実質的に組み入れている新興国通貨との為替変動の影響を受けるため、属性区分を「為替ヘッジなし」としています。

「Bコース(為替ヘッジなし)」

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル		
	年2回	日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年4回	北米	ファミリー ファンド	あり ()
	年6回(隔月)	欧州		
不動産投信	年12回(毎月)	アジア		
		オセアニア		
その他資産 (投資信託証券(株式 一般))	日々	中南米	ファンド・ オブ・ ファンズ	なし
		アフリカ		
		中近東(中東)		
資産複合() 資産配分固定型 資産配分変更型	その他()	エマージング		

《属性区分の定義》

その他資産(投資信託証券(株式 一般)):

目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。当ファンドは、投資信託証券(親投資信託)を通じて主として株式(大型株および中小型株属性にあてはまらないすべてのものをいいます。)に投資します。

年4回：

目論見書または信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。

エマージング：

目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファミリーファンド：

目論見書または信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。

為替ヘッジなし：

目論見書または信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

（注1）当ファンドは投資信託証券（親投資信託）を通じて、主に株式に投資するため、「商品分類」における投資対象資産（収益の源泉）と「属性区分」における投資対象資産は異なります。

（注2）上記は、一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づいて記載しています。当ファンドが該当しない（網掛け表示していない）商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

< ファンドの特色 >

- 1 今後さらなる経済成長が期待される新興国^{*1}の株式等^{*2}に投資します。
- 2 原則として5年以上^{*3}増配を継続している企業の中から配当成長性の高い企業^{*4}を厳選します。

- 株式等の運用は「ラッセル新興国増配継続株マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)を通じて行います。
- マザーファンドにおける株式等の運用指図に関する権限を「ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インク」に委託します。
- 株式等の実質的な組入比率は原則として高位を維持します。

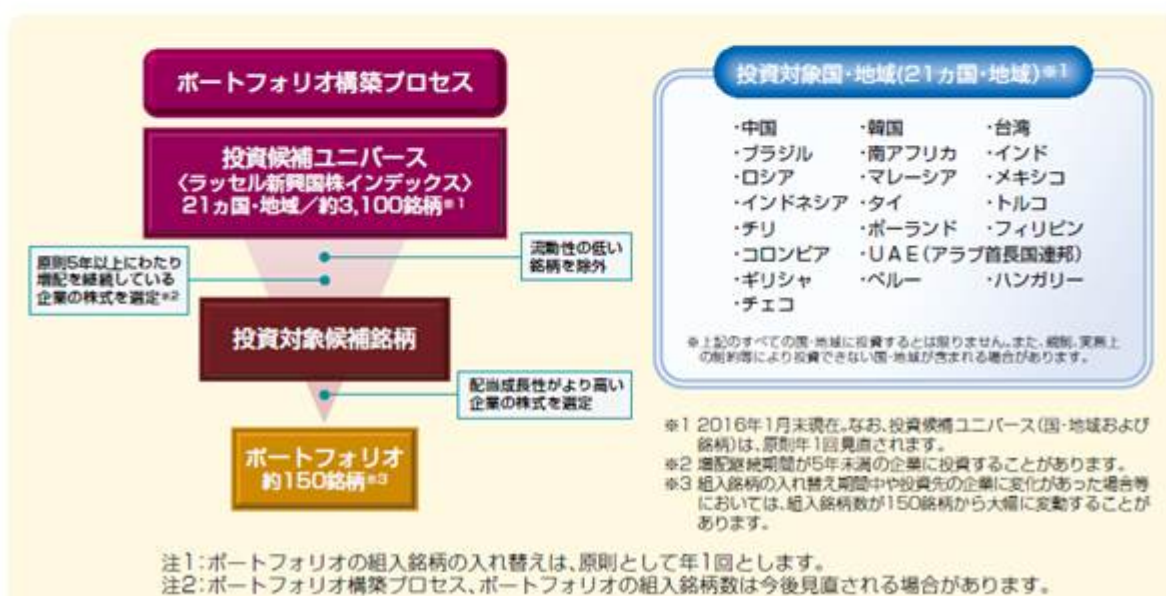
※1 ラッセル新興国株インデックス(当インデックスは時価総額や流動性基準において一定の要件を満たした銘柄から構成されています。)の構成国・地域を投資対象とします。

※2 DR(預託証券)を含みます。DRとはDepositary Receiptの略で、ある国の発行企業の株式を、当該国外の市場で流通させるために、その株式を銀行などに預託し、その代替として海外で発行される証券のことをいいます。株式と同様に金融商品取引所等で取引されます。

※3 増配継続期間を5年未満とすることがあります。

※4 一定期間にわたって増配を継続している企業を増配優良企業、また増配優良企業が発行する株式を増配優良株とします。

増配を継続しているか否かは、各企業の配当データを同一の基準で評価するために、毎年5月末時点から過去1年間における1株あたり配当金額を当該企業のその年の配当金とみなして、ラッセル独自の基準に基づき判断します。なお、当該増配継続企業が、今後も増配を継続するとは限りません。



資金動向、市況動向等により、上記のような運用ができない場合があります。

3 対米ドルで円ヘッジを行う「Aコース(米ドル円ヘッジ)」と、為替ヘッジを行わない「Bコース(為替ヘッジなし)」があります。(注)

(注)販売会社によっては、「Aコース(米ドル円ヘッジ)」もしくは「Bコース(為替ヘッジなし)」のどちらか一方のみのお取り扱いとなる場合があります。

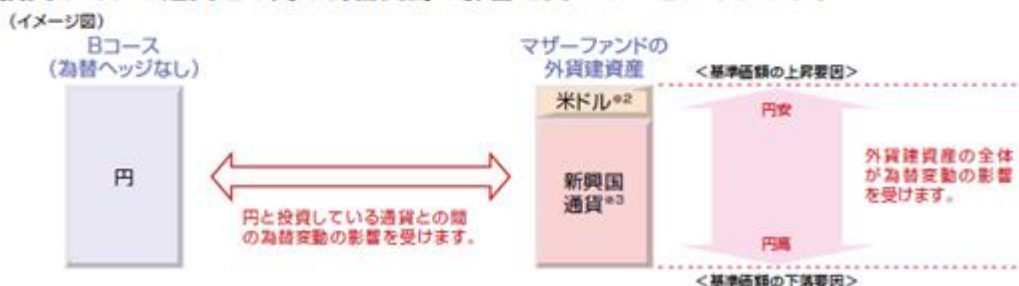
- 「Aコース(米ドル円ヘッジ)」は、原則として対米ドルで円ヘッジ^{※1}を行います。これにより実質的に米ドルから新興国の株式に投資した場合と同様の効果が得られますが、米ドルと新興国通貨との間の為替変動の影響を受けることになります。

なお、「Aコース(米ドル円ヘッジ)」では、為替ヘッジの運用指図に関する権限を「ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インク」に委託します。

※1 対米ドルで円ヘッジを行う際、円の短期金利が米ドルの短期金利より低い場合にはその金利差がコスト(損失)となります。逆の場合には、その金利差が収益となります。



- 「Bコース(為替ヘッジなし)」は、原則として為替ヘッジを行いません。そのため、円と投資している通貨との間の為替変動の影響を受けることになります。



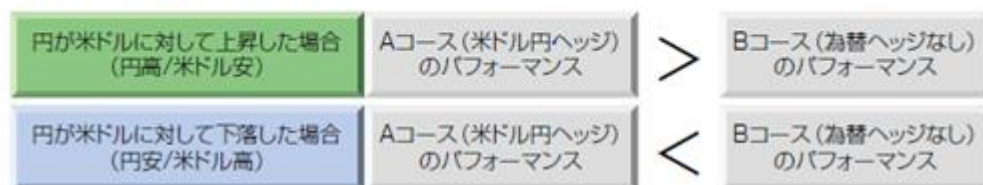
※2 マザーファンドでは米ドル建て等のDR(預託証券)に投資することがあります。

※3 マザーファンドで投資する中国株式は主に香港ドル建てとなります。

(注)香港ドル等、一部の通貨は米ドルに連動するペッグ制を採用しており、ペッグ制が維持される限り、当該通貨の米ドルとの間の変動幅は限定的になるものと想定されます。(2016年1月末現在)

- 「Aコース(米ドル円ヘッジ)」と「Bコース(為替ヘッジなし)」の間の相対パフォーマンスの優劣は、円/米ドル相場の動きに影響を受けます。

円が米ドルに対して上昇した場合(円高/米ドル安)、「Aコース(米ドル円ヘッジ)」のパフォーマンスは「Bコース(為替ヘッジなし)」のパフォーマンスを上回り、円が米ドルに対して下落した場合(円安/米ドル高)、「Bコース(為替ヘッジなし)」のパフォーマンスは「Aコース(米ドル円ヘッジ)」のパフォーマンスを上回ることが想定されます。



資金動向、市況動向等により、上記のような運用ができない場合があります。

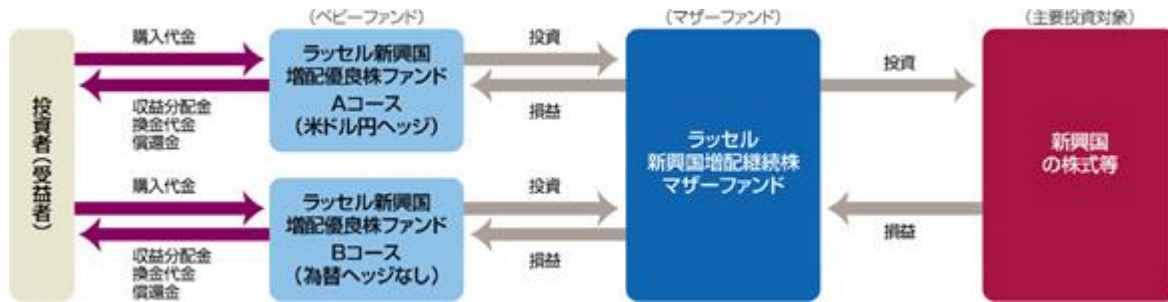
(2) 【ファンドの沿革】

平成24年9月28日 信託契約の締結、当ファンドの設定日(運用開始日)

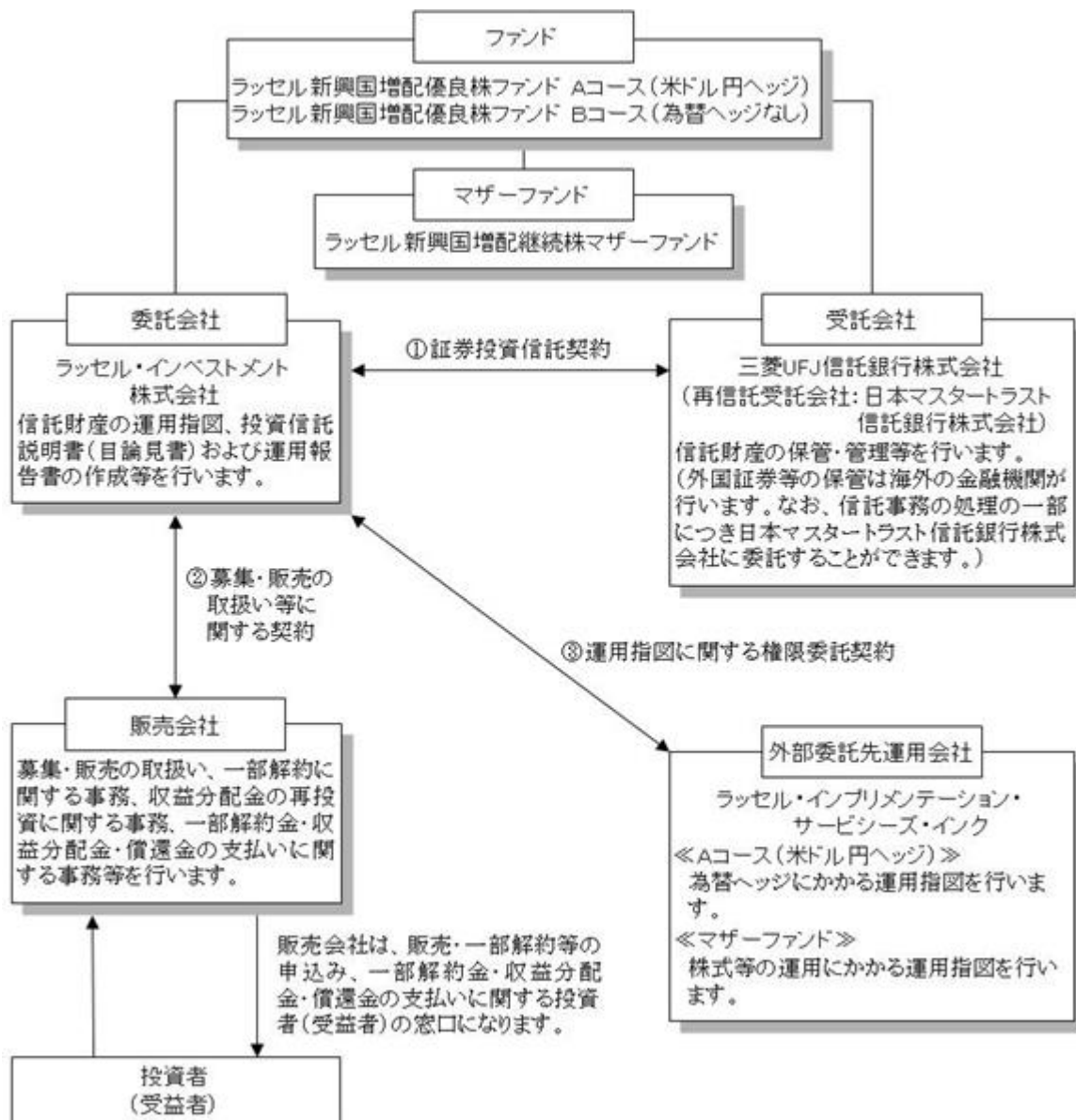
(3) 【ファンドの仕組み】

当ファンドはファミリーファンド方式で運用します。

ファミリーファンド方式とは、投資者(受益者)から投資された資金をまとめてベビーファンド(「Aコース(米ドル円ヘッジ)」および「Bコース(為替ヘッジなし)」)とし、その資金を「ラッセル新興国増配継続株マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)に投資して、実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。



<ファンドの関係法人および運営上の役割>



<契約の概要>

証券投資信託契約

委託会社と受託会社の間で締結され、証券投資信託の運営に関する事項（運用の基本方針、投資対象、投資制限、委託会社、受託会社および受益者の権利義務関係等）を定めた契約です。

募集・販売の取扱い等に関する契約

委託会社と販売会社の間で締結され、募集・販売の取扱い、一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等にかかる包括的な規則を定めた契約です。

運用指図に関する権限委託契約

委託会社と外部委託先運用会社の間で締結され、「Aコース(米ドル円ヘッジ)」およびマザーファンドの運用指図権限の委託に関する業務の内容を定めた契約です。

< 委託会社の概況 >

資本金の額 1,609.5百万円（平成28年1月末現在）

沿革

平成11年3月9日	フランク・ラッセル投信株式会社設立
平成11年3月25日	「証券投資信託及び証券投資法人に関する法律」に基づく証券投資信託委託業の認可取得
平成11年11月15日	「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づく投資顧問業者の登録
平成12年1月27日	「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づく投資一任契約にかかる業務の認可取得
平成14年7月18日	「フランク・ラッセル株式会社」に商号変更
平成18年2月16日	「ラッセル・インベストメント証券投信投資顧問株式会社」に商号変更
平成18年3月1日	ラッセル・インベストメント証券株式会社と合併
平成19年12月21日	「ラッセル・インベストメント株式会社」に商号変更

大株主の状況

（平成28年1月末現在）

株主名	住所	所有株式数	持株比率
ラッセル・インベストメント・グループ株式会社	東京都港区赤坂七丁目3番37号 プラス・カナダ	34,090株	100%

（参考）

ラッセル・インベストメント株式会社の概要

ラッセル・インベストメント株式会社は、ラッセル・インベストメントグループの日本拠点です。グローバルな事業展開により培ったノウハウをファンド運用に活かして、長期的に安定した収益を生み出すファンドを投資者の皆様へ提供することを目指しており、これまで世界各国で提供してきた“マルチ・マネージャー・ファンド”を日本で初めて設定・運用管理し、提供しております。

ラッセル・インベストメントグループの概要

ラッセル・インベストメントグループは、年金、金融機関および個人など様々な投資者の皆様を対象に、グローバルに総合的な資産運用ソリューションを提供しています。グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理など幅広く業務を行っており、当グループの運用資産総額（オーバーレイ運用を含みます。）は平成27年9月末現在で約28兆円となっています。当グループの創立は1936年。米国ワシントン州シアトルを本拠地とします。

2【投資方針】

(1)【投資方針】

基本方針（各ファンド共通）

信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

運用方法

(a)投資対象（各ファンド共通）

マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。

(b)投資態度（3．以外において各ファンド共通）

- マザーファンド受益証券への投資を通じて、主に新興国の株式等（DR（預託証券）を含みます。）の中から、継続して増配している銘柄に投資することを基本とします。
- マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。
- 「Aコース（米ドル円ヘッジ）」
実質組入外貨建資産については、原則として対米ドルで為替ヘッジを行います。なお、為替ヘッジにあたっては、運用の指図に関する権限をラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクに委託します。
「Bコース（為替ヘッジなし）」
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- 信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクまたは為替変動リスクを回避するため、デリバティブ取引を行うことができます。
- 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、償還の準備に入ったとき、ならびに実質的な投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍

結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)の発生を含む市況動向等により、上記のような運用ができない場合があります。

(2)【投資対象】

投資の対象とする資産の種類(各ファンド共通)

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- (a)次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律(以下「投信法」といいます。))第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)
1. 有価証券
 2. デリバティブ取引にかかる権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第22条ないし第24条に定めるものに限り。)
 3. 金銭債権
 4. 約束手形
- (b)次に掲げる特定資産以外の資産
1. 為替手形

有価証券の指図範囲(各ファンド共通)

委託会社(「Aコース(米ドル円ヘッジ)」)においては、運用の指図に関する権限を受けたものを含みます。以下、()において同じ。)は、信託金を、主としてマザーファンドの受益証券のほか、次に掲げる有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1. 株券または新株引受権証券
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。)の新株引受権証券を除きます。)
6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
10. コマーシャル・ペーパー
11. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。)および新株予約権証券
12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
13. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
14. 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
15. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
16. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限り。)
17. 預託証券(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
19. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限り。)
20. 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、1. の証券または証書ならびに12. および17. の証券または証書のうち1. の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2. から6. までの証券ならびに14. の証券のうち投資法人債券ならびに12. および17. の証券または証書のうち2. から6. までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13. の証券および14. の証券(投資法人債券を除きます。)を以下「投資信託証券」といいます。

金融商品の指図範囲（各ファンド共通）

委託会社は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形
- 5．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6．外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

（各ファンド共通）

上記 にかかわらず、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記 に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

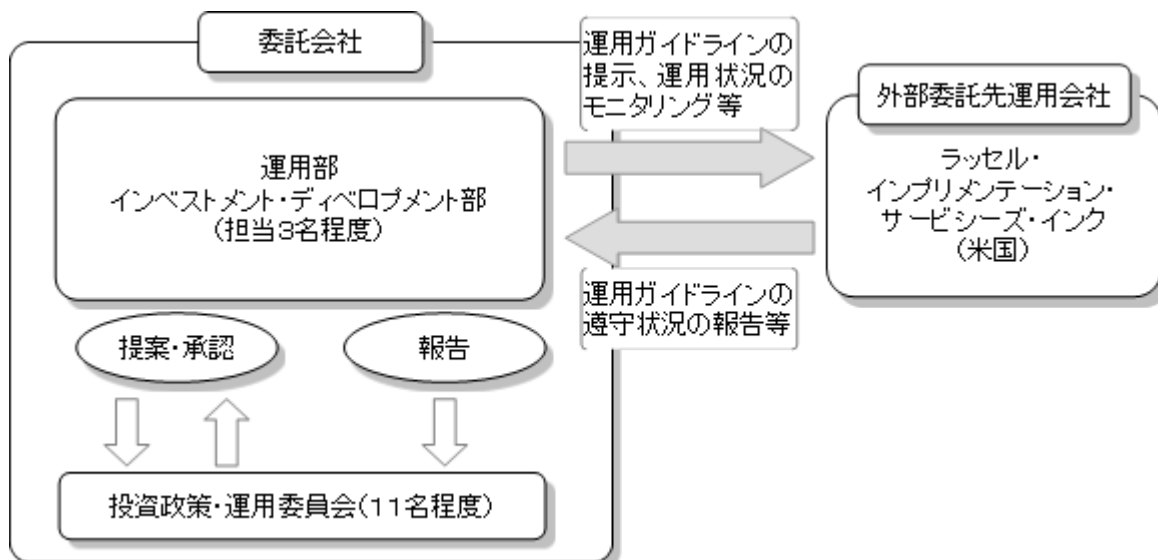
(3)【運用体制】

委託会社では以下の運用体制を構築しています。

- ・マザーファンドの運用にあたっては、株式等の運用の指図に関する権限をラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクに委託します。また、「Aコース（米ドル円ヘッジ）」につきまして、為替ヘッジの指図に関する権限をラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクに委託します。
- ・運用部およびインベストメント・ディベロプメント部では、当ファンドの運用の詳細を定めた運用ガイドラインの策定・変更等に関して、投資政策・運用委員会に提案しその承認を得ます。また、資産評価・運用状況等をモニタリングすることに加え、定期的にラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクの運用部門と情報交換を行うことで、必要な対応を図ることができるようにしています。併せて、投資政策・運用委員会に定期的に報告を行います。

（投資政策・運用委員会）

- ・投資政策・運用委員会は代表取締役社長兼CEO、運用部長およびジェネラル・カウンセルを含む議決権を有する5名の委員と、議決権を有しない準委員で構成されています。



また、委託会社では、以下のように当ファンド（マザーファンドを含みます。）の関係法人（販売会社を除く）に対する管理を行います。

- ・外部委託先運用会社（ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インク）
外部委託先運用会社に対し、運用ガイドラインの遵守状況をモニタリングしています。外部委託先運用会社は、運用ガイドラインに違反した場合には直ちに委託会社に報告する義務があります。また、定期的に外部委託先運用会社から違反がなかった旨の確認をとっており、その結果が投資政策・運用委員会に報告されます。
- ・受託会社

オペレーション部(担当5名程度)が、内部統制等についての外部監査報告書を毎年受領し、受託会社の内部統制の状況を確認するほか、信託財産管理に係わるサービスの正確性・迅速性・システム対応力を随時検証し、必要と判断した場合には受託会社に個別説明等を求めることとしています。

上記の体制等は平成28年1月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

(4)【分配方針】

(各ファンド共通)

年4回の決算時(原則として毎年3月、6月、9月および12月の各3日。休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

1. 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収入と売買益(評価益を含みみず。)等の全額とします。
2. 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないことがあります。
3. 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。



「一般コース」を選択した場合には、収益分配金は、税金を差し引いた後、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

また、「自動けいぞく投資コース」を選択した場合には、収益分配金は、税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。

なお、販売会社によってはどちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

(5)【投資制限】

信託約款による投資制限(各ファンド共通)

(a) 株式への実質投資割合 には制限を設けません。

「実質投資割合」とは、各ファンドの信託財産の純資産総額に対する、各ファンドの信託財産に属する資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該資産の時価総額のうち当該ファンドの信託財産に属するとみなした額との合計額の割合をいいます。以下同じ。

(b) 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

(c) 投資信託証券(マザーファンド受益証券および上場投資信託証券(金融商品取引所に上場等され、かつ当該金融商品取引所において常時売却可能(市場急変等により一時的に流動性が低下している場合を除きます。))な投資信託証券をいいます。))を除きます。以下同じ。))への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。

(d) 委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に定める一のものに対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率が、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えることとなる投資の指図をしません。当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うものとします。

(e) 委託会社は、デリバティブ取引等(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。))を行い、または継続することを内容とした運用の指図を行うにあたり、一般社団法人投資信託協会の規則に基づき、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

(f) 投資する株式等の範囲

1. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、および金融商品取引所に準ずる市場で取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者

割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。

2. 上記1.にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができるものとします。

(g)信用取引の指図範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
2. 上記1.の信用取引の指図は、当該売付にかかる建玉の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該売付にかかる建玉のうち当該信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2.の売付にかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることになった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。
4. 上記2.において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該売付にかかる建玉の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(h)先物取引等の運用指図・目的・範囲

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします(以下同じ。)
2. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
3. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。
4. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、国内および国外において行われる、金融商品取引法第22条第22項第1号から第4号(ただし、第3号に規定する「前2号及び第5号から第7号までに掲げる取引」は「前2号に掲げる取引」のみとします。)に規定する店頭デリバティブ取引を行うことができます。

(i)スワップ取引の運用指図・目的・範囲

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
2. スワップ取引の契約期限は、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
4. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(j)金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の運用指図

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
2. 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引にあたっては、当該取引の決済日が、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

4. 委託会社は、金利先渡取引、為替先渡取引および直物が替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- (k) 有価証券の貸付の指図および範囲
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 - イ. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 - ロ. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
 2. 上記1. に定める限度額を超えることになった場合には、委託会社は速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
 3. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。
- (l) 有価証券の空売りの指図範囲
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属さない有価証券または信託約款の規定により借入れた有価証券を売付ることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、売付けた有価証券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
 2. 上記1. の売付の指図は、当該売付にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2. の売付にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。
- (m) 有価証券の借入れ
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券の借入れの指図をすることができます。なお、当該有価証券の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
 2. 上記1. の指図は、当該借入れにかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2. の借入れにかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた有価証券の一部を返還するための指図をするものとします。
 4. 上記1. の借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁します。
- (n) 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限
- 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。
- (o) 外国為替予約取引の指図および範囲
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引を指図することができます。
 2. 上記1. の予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産(マザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。))を含みます。)の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
 3. 上記2. の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。
- (p) 資金の借入れ
1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
 2. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は一部解約金の支払資金の手当てのために行った有価証

券等の売却または解約等ならびに有価証券等の償還による受取りの確定している資金の額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

- 3．収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- 4．借入金の利息は信託財産中より支弁します。

法令上の投資制限（各ファンド共通）

各ファンドに適用される投信法等関連法令上の投資制限は以下のとおりです。

- (a) デリバティブ取引にかかる制限（金融商品取引法第42条の2第7号、金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）

委託会社は、運用財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ金融商品取引業者等が定めた合理的な方法により算出した額が当該運用財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを内容とした運用を行わないものとします。

- (b) 同一法人の発行する株式への投資制限（投信法第9条、同法施行規則第20条）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法（平成17年法律第86号）第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）の総数が当該株式にかかる議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

- (c) 信用リスク集中回避のための投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2）

委託会社は、信託財産に関し、信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しません。

（参考情報）ラッセル新興国増配継続株マザーファンドの概要

(1) マザーファンドの投資方針

基本方針

信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

運用方法

(a) 投資対象

新興国の株式等を主要投資対象とします。

(b) 投資態度

- 1．主に新興国の株式等（DR（預託証券）を含みます。）の中から、継続して増配している銘柄に投資することを基本とします。
- 2．株式等の運用にあたっては、運用の指図に関する権限をラッセル・インプリメンテーション・サービシズ・インクに委託します。
- 3．株式の組入比率は、原則として高位を維持します。
- 4．外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- 5．信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクまたは為替変動リスクを回避するため、デリバティブ取引を行うことができます。
- 6．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、償還の準備に入ったとき、ならびに投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）の発生を含む市況動向等により、上記のような運用ができない場合があります。

(2) マザーファンドの投資対象

投資の対象とする資産の種類

マザーファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

(a) 次に掲げる特定資産

- 1．有価証券
- 2．デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第20条ないし第22条に定めるものに限りません。）

3．金銭債権

4．約束手形

(b)次に掲げる特定資産以外の資産

1．為替手形

有価証券の指図範囲

委託会社（運用の指図に関する権限の委託を受けたものを含みます。以下、
、において同じ。）は、信託金を、主として次に掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- 1．株券または新株引受権証書
- 2．国債証券
- 3．地方債証券
- 4．特別の法律により法人の発行する債券
- 5．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- 6．資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
- 7．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
- 8．協同組織金融機関にかかる優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
- 9．資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
- 10．コマーシャル・ペーパー
- 11．新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
- 12．外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
- 13．投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
- 14．投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
- 15．外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
- 16．オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限りません。）
- 17．預託証券（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- 18．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 19．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
- 20．抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
- 21．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- 22．外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、1．の証券または証書ならびに12．および17．の証券または証書のうち1．の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2．から6．までの証券ならびに14．の証券のうち投資法人債券ならびに12．および17．の証券または証書のうち2．から6．までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13．の証券および14．の証券（投資法人債券を除きます。）を以下「投資信託証券」といいます。

金融商品の指図範囲

委託会社は、信託金を、上記に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形
- 5．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6．外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

上記にかかわらず、マザーファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3) マザーファンドの投資制限

信託約款による投資制限

- (a) 株式への投資割合には制限を設けません。
- (b) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
- (c) 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- (d) 委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率が、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えることとなる投資の指図をしません。当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい、当該比率以内となるよう調整を行うものとします。
- (e) 委託会社は、デリバティブ取引等（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを内容とした運用の指図を行うにあたり、一般社団法人投資信託協会の規則に基づき、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- (f) 投資する株式等の範囲
 1. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、および金融商品取引所に準ずる市場で取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。
 2. 上記1.にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができるものとします。
- (g) 信用取引の指図範囲
 1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。
 2. 上記1.の信用取引の指図は、当該売付にかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2.の売付にかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることになった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。
- (h) 先物取引等の運用指図・目的・範囲
 1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします。
 2. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
 3. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。
 4. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、国内および国外において行われる、金融商品取引法第2条第22項第1号から第4号（ただし、第3号に規定する「前2号及び第5号から第7号までに掲げる取引」は「前2号に掲げる取引」のみとします。）に規定する店頭デリバティブ取引を行うことができます。

(i)スワップ取引の運用指図・目的・範囲

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
2. スワップ取引の契約期限は、原則としてマザーファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
4. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(j)金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の運用指図

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
2. 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則としてマザーファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. 金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
4. 委託会社は、金利先渡取引、為替先渡取引および直物為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(k)有価証券の貸付の指図および範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 - イ. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 - ロ. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
2. 上記1. に定める限度額を超えることになった場合には、委託会社は速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
3. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

(l)有価証券の空売りの指図範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属さない有価証券または信託約款の規定により借入れた有価証券を売付ることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、売付けた有価証券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
2. 上記1. の売付の指図は、当該売付にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2. の売付にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

(m)有価証券の借入れ

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券の借入れの指図をすることができます。なお、当該有価証券の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
2. 上記1. の指図は、当該借入れにかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
3. 信託財産の一部解約等の事由により、上記2. の借入れにかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた有価証券の一部を返還するための指図をするものとします。
4. 上記1. の借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁します。

(n)特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

(o)外国為替予約取引の指図および範囲

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引を指図することができます。

2. 上記1.の予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
3. 上記2.の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

マザーファンドにおける法令上の投資制限

マザーファンドに適用される法令上の投資制限は、前述の「2 投資方針 (5)投資制限 法令上の投資制限」において、各ファンドについて掲げたものと同じです。

3【投資リスク】

(1)リスク要因

取得申込みに際しては、当ファンドのリスクおよび留意点を十分ご理解のうえご検討いただきますようお願いいたします。

当ファンドの基準価額は、実質的に投資を行っている有価証券等の値動きや為替変動等による影響を受けませんが、これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、当ファンドにおいて、投資者のみなさまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドは、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、金融商品取引業者（従来の証券会社）以外でご購入いただいた場合、投資者保護基金の対象とはなりません。

当ファンドの主なリスクとしては、以下のようなものがあげられます。

基準価額の変動リスク

(a) 株価変動リスク

株価は政治、経済、社会情勢の変化等の影響を受けます。一般に、株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に新興国における当該影響は、先進国以上に大きくなる可能性があります。

(b) 株式の発行会社の信用リスク

株式の発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に新興国における当該影響は、先進国以上に大きくなる可能性があります。

(c) 為替変動リスク

「Aコース（米ドル円ヘッジ）」

実質組入外貨建資産に対して、原則として対米ドルで為替ヘッジを行うことにより、円と米ドルとの間の為替変動リスクの低減を図りますが、投資する新興国通貨と米ドルとの間の為替変動の影響を受けることとなります。したがって、投資する新興国通貨が米ドルに対して安くなった場合（米ドル高/新興国通貨安になった場合）には、「Aコース（米ドル円ヘッジ）」の基準価額が下落する要因となります。

なお、為替ヘッジを行う際、円金利が米ドルの金利より低い場合には、米ドルと円の金利差相当分のヘッジコストが発生します。

「Bコース（為替ヘッジなし）」

実質組入外貨建資産に対して、原則として為替ヘッジを行いませんので、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、「Bコース（為替ヘッジなし）」の基準価額が下落する要因となります。特に新興国通貨における当該影響は、先進国以上に大きくなる可能性があります。

(d) カントリーリスク

新興国では、政治、経済、社会情勢の変化等により金融市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合等の影響が先進国以上に大きくなる可能性があり、当ファンドの基準価額が下落する要因になり、また投資方針に沿った運用ができない可能性があります。

また、新興国では他に以下のようなリスクがあります。

- ・ 税制が一方的に変更されたり、新たな税制が適用されたりすることがあります。
- ・ 有価証券の売却時における課税のタイミングの違いによる影響等が生じることがあります。
- ・ 情報の開示等が先進国に比較して充分ではない、あるいは正確な情報の入手が遅延することがあります。
- ・ 法制度（市場の法制度、政府の規制、税制、外国への送金規制等）やインフラストラクチャーが未発達なこと等から、決済の遅延・不能等が発生することがあります。

(e) 流動性リスク

当ファンドで短期間に相当金額の換金申込みがあった場合、組入有価証券を売却することで換金代金の手当てを行います。市場における流動性が低いときには、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。当ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に新興国では、一般的に先進国の市場に比べ、市場規模が小さく流動性が低いこと等から、当該影響は先進国以上に大きくなる可能性があります。

(f)市場動向と乖離するリスク

設定時、償還時、大量設定・解約時、市況の大きな変動時などにおいて、当ファンドの基準価額の変動が、市場の変動と大きく乖離する可能性があります。

上記は当ファンドの基準価額に影響を及ぼす主なリスクであり、リスクは上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

(a)当ファンドの取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

(b)当ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、マザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動等があり、その結果、マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

(c)市況動向、資金動向等によっては、投資方針に沿った運用ができない可能性があります。

(d)金融商品取引所等における取引の停止(個別銘柄の売買停止等を含みます。)、決済機能の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情(実質的な投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等)があるときは、委託会社の判断により、取得申込み、換金申込みの各受付を中止することおよび既に受付けた取得申込み、換金申込みの各受付を取消す場合があります。

(e)法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。

(f)分配金に関する留意点

分配金は、預貯金の利息と異なり、当ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額が下落します。

分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。

投資者の当ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

(2)投資リスクに対する管理体制

投資リスクに対する管理体制は以下のとおりです。

- ・運用部およびインベストメント・ディベロプメント部では、運用状況や運用ガイドラインの遵守状況等をモニタリングします。
- ・法務・コンプライアンス部では、法令・信託約款等の遵守状況を中心にモニタリングします。
- ・投資政策・運用委員会では、社内規程に基づき、原則月に一度、資産評価・運用状況、運用ガイドライン遵守状況等のモニタリングについて、運用部、インベストメント・ディベロプメント部および法務・コンプライアンス部から報告を受けるとともに、その検証を行っています。

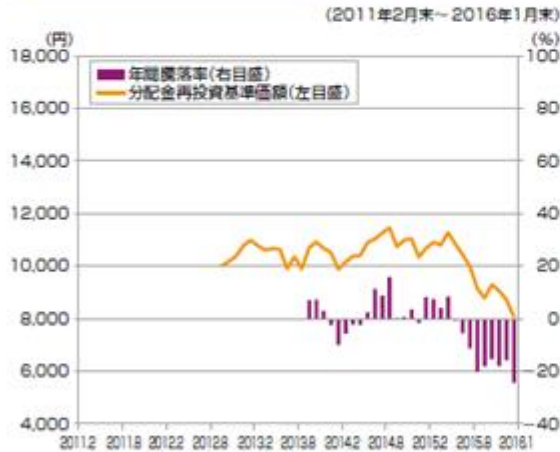
上記の体制等は平成28年1月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

参考情報

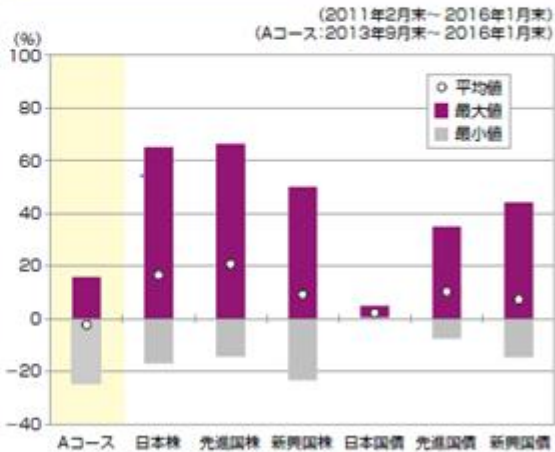
左下のグラフは、各ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移を示したものです。また、右下のグラフは、各ファンドおよび代表的な資産クラスの年間騰落率の平均値・最大値・最小値を示したものです。

《Aコース(米ドル円ヘッジ)》

ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



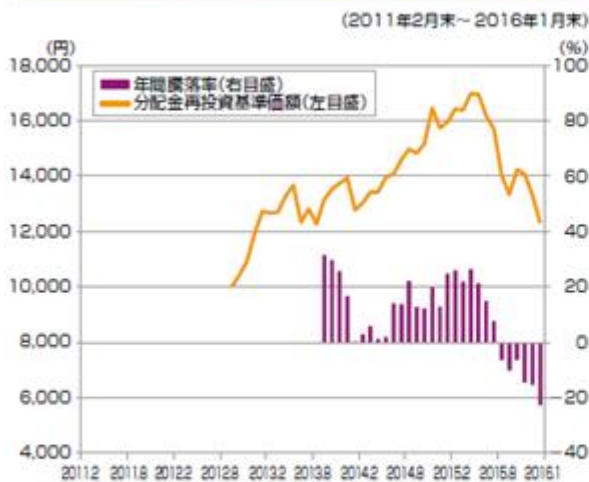
ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



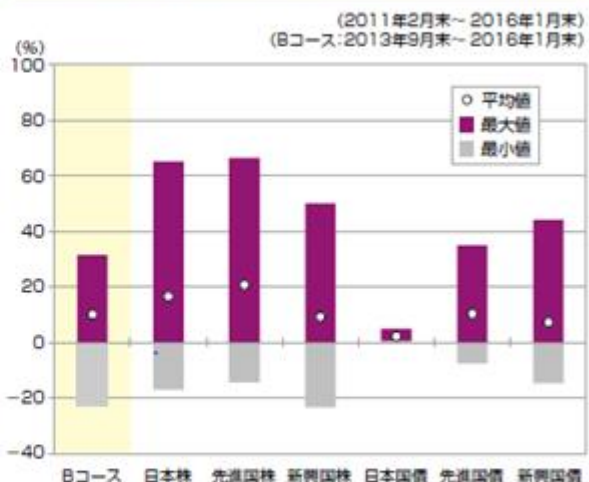
(単位:%)	Aコース	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-2.3	16.6	20.7	9.3	2.3	10.3	7.3
最大値	15.9	65.0	66.5	50.1	4.5	34.9	44.1
最小値	-24.4	-17.0	-14.3	-23.3	0.4	-7.5	-14.6

《Bコース(為替ヘッジなし)》

ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)	Bコース	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	10.0	16.6	20.7	9.3	2.3	10.3	7.3
最大値	31.5	65.0	66.5	50.1	4.5	34.9	44.1
最小値	-22.7	-17.0	-14.3	-23.3	0.4	-7.5	-14.6

※各ファンドの分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、実際の基準価額とは異なります。

※各ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づいて計算しています。

※前頁左グラフにおける年間騰落率は、2013年9月から2016年1月までの各月末における直近1年間の騰落率で、その推移を棒グラフで表示しています。

※前頁右グラフは、2011年2月から2016年1月までの5年間(各ファンドは2013年9月から2016年1月まで)の各月末における直近1年間の騰落率を元に、その平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、前頁右グラフは各ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、すべての資産クラスが各ファンドの投資対象とは限りません。

※各資産クラスの年間騰落率の計算に際しては、以下の指数を使用しています。なお、各指数については、<「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について>をご参照ください。

日本株 …… TOPIX(配当込み)

先進国株 …… ラッセル先進国(除く日本)株インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株 …… ラッセル新興国株インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債 …… NOMURA-BPI 国債

先進国債 …… シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債 …… シティ新興国市場国債インデックス(円ベース)

<「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について>

◆TOPIX(配当込み)

TOPIX(配当込み)は東京証券取引所第一部に上場されているすべての銘柄の時価総額を指数化したものに、現金配当による権利落ちの修正を加えたものです。TOPIXは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、株価指数の算出、公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものではありませんが、株式会社東京証券取引所はその確実性および完結性に責任を負うものではありません。

◆ラッセル先進国(除く日本)株インデックス(配当込み、円ベース)

ラッセル先進国(除く日本)株インデックスは、ロンドン証券取引所グループに属する会社が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。ラッセル先進国(除く日本)株インデックスに関連する登録商標、トレードマーク、サービスマークおよび著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利は、ロンドン証券取引所グループに属する会社に帰属します。

◆ラッセル新興国株インデックス(配当込み、円ベース)

ラッセル新興国株インデックスは、ロンドン証券取引所グループに属する会社が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。ラッセル新興国株インデックスに関連する登録商標、トレードマーク、サービスマークおよび著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利は、ロンドン証券取引所グループに属する会社に帰属します。

◆NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIは、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村証券株式会社に帰属しています。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

◆シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

◆シティ新興国市場国債インデックス(円ベース)

シティ新興国市場国債インデックス(円ベース)は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、主要新興国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

3.78%¹(税抜3.5%)を上限として販売会社が定める申込手数料率を、お申込口数、お申込金額等に応じて、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に乗じて得た額が申込手数料²となります。

1 消費税および地方消費税に相当する金額(以下「消費税等相当額」といいます。)を含みます。なお、税法が改正された場合等には、消費税等相当額が変更になることがあります。

2 申込手数料は商品説明や購入申込受付に係る事務手続き等の対価です。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合には、申込手数料はかかりません。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

(2) 【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はありません。

ただし、換金（解約）時に、換金申込受付日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た信託財産留保額 が控除されます。

「信託財産留保額」とは、当ファンドの保有を続ける受益者との公平性や運用の安定化を図るため、換金する受益者が負担する一定の金額をいい、当該金額は当ファンドに繰り入れられます。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.782%（税抜 1.65%）の率を乗じて得た金額とします。信託報酬は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁されます。なお、信託報酬にかかる消費税等相当額が、信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁されます。

< 信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率 >

税法が改正された場合等には、消費税等相当額が変更になることがあります。

信託報酬にかかる各支払先への配分は、次のとおりです。

支払先	配 分	役務の内容
委託会社	年0.810% (税抜 0.75%)	各ファンドの運用等の対価
販売会社	年0.918% (税抜 0.85%)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドに係る管理事務、購入後の情報提供等の対価
受託会社	年0.054% (税抜 0.05%)	各ファンドの資産管理等の対価

委託会社および販売会社の報酬は信託財産中から委託会社に対して支弁され、販売会社の報酬は委託会社より販売会社に対して支払われます。受託会社の報酬は信託財産中から受託会社に対して支弁されます。

委託会社の報酬には、「Aコース（米ドル円ヘッジ）」およびマザーファンドの運用の指図に関する権限の委託を受けたラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクに対する報酬が含まれています。その報酬額は委託会社と当該外部委託先運用会社との間で別途定められ、信託財産から直接の支弁は行いません。

(4) 【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁されます。

以下の諸費用（以下「諸費用」といいます。）および当該諸費用にかかる消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁されます。

1. 振替受益権の管理事務に関連する費用
2. 有価証券届出書、有価証券報告書等法定書類の作成、印刷および提出にかかる費用
3. 目論見書の作成、印刷および交付にかかる費用
4. 信託約款の作成、印刷および交付にかかる費用
5. 運用報告書の作成、印刷および交付にかかる費用
6. 当ファンドの受益者に対して行う公告にかかる費用ならびに信託約款の変更または信託契約の解約にかかる事項を記載した書面の作成、印刷および交付にかかる費用
7. 当ファンドの監査人、法律顧問および税務顧問に対する報酬および費用

委託会社は、信託財産の純資産総額に年0.108%（税抜 0.10%）の率を乗じて得た金額を上限として、上記の諸費用の金額をあらかじめ合理的に見積もった上で、実際または予想される費用の額を固定率または固定金額にて信託財産中からその支弁を受けます。諸費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁されます。

委託会社は、信託財産の規模等を考慮して、信託の期中に、かかる上限、固定率または固定金額を変更することができます。

税法が改正された場合等には、消費税等相当額が変更になることがあります。

信託財産に属する有価証券の売買時の売買委託手数料、当該売買委託手数料にかかる消費税等相当額および外貨建資産の保管等に要する費用ならびに先物・オプション取引等に要する費用は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁されます。

当ファンドにおいて、一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行った場合、当該借入金の利息は信託財産中から支弁されます。

その他の手数料等については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

(5) 【課税上の取扱い】

課税上は株式投資信託として取り扱われます。

個人の受益者に対する課税の取扱いについて

収益分配時

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税対象となる普通分配金については、原則として、以下の税率で源泉徴収が行われます。

なお、確定申告により、総合課税（配当控除の適用はありません。）または申告分離課税を選択することができます。

換金および償還時

換金時および償還時の差益（換金価額および償還価額から申込手数料（税込）を含む取得費を控除したもの）については、原則として、以下の税率で申告分離課税が適用されます。ただし、源泉徴収口座を選択した場合は以下の税率で源泉徴収が行われます。

期間	税率
平成49年12月31日まで	20.315% （所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）
平成50年1月1日以降	20%（所得税15%および地方税5%）

損益通算について

換金時および償還時の差損（譲渡損失）については、確定申告により、上場株式等の譲渡所得、上場株式等の配当所得および特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得（申告分離課税を選択したものに限り、）と損益通算が可能です。また、換金時および償還時の差益（譲渡益）、普通分配金および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限り、）については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。

NISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳細は販売会社にお問い合わせください。

法人の受益者に対する課税の取扱いについて

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税対象となる普通分配金、ならびに換金時および償還時の個別元本超過額については、以下の税率で源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収はありません。

益金不算入制度の適用はありません。

期間	税率
平成49年12月31日まで	15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）
平成50年1月1日以降	15%（所得税15%）

詳細は販売会社にお問い合わせください。

< 収益分配金について >

収益分配金には、課税扱いとなる普通分配金と、非課税扱いとなる元本払戻金（特別分配金）の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時に個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

< 個別元本について >

受益者毎の取得時の価額（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）となります。

受益者が当ファンドを複数回取得した場合、個別元本は当該受益者が取得するつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

同一の販売会社の複数支店等で当ファンドを取得する場合は当該支店等毎に、複数のコースを保有する場合はコース毎に個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額がその後の当該受益者の個別元本となります。

上記は平成28年1月末現在の情報です。税法が改正された場合等は、上記の内容が変更になる場合があります。

税制の詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

以下は平成28年1月29日現在の運用状況です。

(1)【投資状況】

Aコース（米ドル円ヘッジ）

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	5,483,187	100.07
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	3,676	0.07
合計(純資産総額)		5,479,511	100.00

(注)投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

Bコース（為替ヘッジなし）

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	243,289,285	98.18
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	4,508,513	1.82
合計(純資産総額)		247,797,798	100.00

(注)投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(参考)ラッセル新興国増配継続株マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	メキシコ	69,939,136	1.61
	ブラジル	364,300,153	8.40
	コロンビア	118,623,854	2.74
	トルコ	8,188,183	0.19
	ポーランド	5,519,920	0.13
	ロシア	212,574,752	4.90
	ケイマン諸島	376,686,872	8.69
	バミューダ	55,240,223	1.27
	香港	78,526,665	1.81
	マレーシア	63,256,076	1.46
	タイ	207,195,824	4.78
	フィリピン	86,619,561	2.00
	インドネシア	101,560,450	2.34
	韓国	660,794,612	15.24
	台湾	118,331,726	2.73
	中国	162,014,668	3.74
	インド	880,523,944	20.32
	南アフリカ	692,235,397	15.97
マーシャル諸島	4,242,199	0.10	
小計		4,266,374,215	98.42
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	68,656,590	1.58
合計(純資産総額)		4,335,030,805	100.00

(注1)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(注2)国/地域は、投資有価証券の発行国/地域に基づいて表示しています。なお、マザーファンドでは、「ラッセル新興国株インデックス」の構成国/地域を投資対象ユニバースとすることから、「第1 ファンドの状況 5 運用状況（参考情報）」では、投資有価証券の国/地域を「ラッセル新興国株インデックス」の国/地域分類に基づいて表示しています。そのため、上記表との間で国/地域の表示が異なる場合があります。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

Aコース（米ドル円ヘッジ）

銘柄名	種類	国/地域	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
ラッセル新興国増配 継続株マザーファンド	親投資信託 受益証券	日本	4,028,793	1.5405	6,206,741	1.3610	5,483,187	100.07

(注) 投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価比率をいいます。

Bコース(為替ヘッジなし)

銘柄名	種類	国/ 地域	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
ラッセル新興国増配 継続株マザーファンド	親投資信託 受益証券	日本	178,757,741	1.5519	277,414,139	1.3610	243,289,285	98.18

(注) 投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価比率をいいます。

投資有価証券種類別投資比率

Aコース(米ドル円ヘッジ)

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	親投資信託受益証券	100.07
合計		100.07

(注) 投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価比率をいいます。

Bコース(為替ヘッジなし)

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	親投資信託受益証券	98.18
合計		98.18

(注) 投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(参考) ラッセル新興国増配継続株マザーファンド 投資有価証券の主要銘柄

順位	銘柄名	種類	国/地域	業種	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	株式	インド	銀行	124,739	2,148.95	268,058,922	2,042.99	254,841,153	5.88
2	TENCENT HOLDINGS LTD	株式	ケイマン 諸島	ソフトウェア・ サービス	113,900	2,360.00	268,804,182	2,196.21	250,149,002	5.77
3	NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S	株式	ロシア	エネルギー	21,619	10,718.75	231,728,691	9,832.77	212,574,752	4.90
4	HYUNDAI MOTOR CO	株式	韓国	自動車・自動車部 品	15,047	15,143.03	227,857,184	13,554.00	203,947,038	4.70
5	HYUNDAI MOBIS CO LTD	株式	韓国	自動車・自動車部 品	7,012	24,578.42	172,343,895	27,208.40	190,785,301	4.40
6	ITAU UNIBANCO HOLDING S-PREF	株式	ブラジル	銀行	231,327	797.44	184,470,560	708.04	163,790,620	3.78
7	CHINA CONSTRUCTION BANK-H	株式	中国	銀行	2,261,000	82.97	187,614,388	71.65	162,014,668	3.74
8	ICICI BANK LTD	株式	インド	銀行	310,280	472.87	146,722,394	415.09	128,795,987	2.97
9	MTN GROUP LTD	株式	南アフリ カ	電気通信サービス	124,948	1,094.90	136,806,090	972.03	121,454,204	2.80
10	KIA MOTORS CORP	株式	韓国	自動車・自動車部 品	25,028	5,480.73	137,171,851	4,758.96	119,107,251	2.75
11	ITC LTD	株式	インド	食品・飲料・タバ コ	193,851	621.93	120,562,140	567.01	109,917,200	2.54

12	FIRSTRAND LTD	株式	南アフリカ	各種金融	321,033	348.15	111,770,272	314.73	101,041,092	2.33
13	HCL TECHNOLOGIES LTD	株式	インド	ソフトウェア・サービス	54,364	1,530.17	83,186,542	1,503.20	81,720,508	1.89
14	SANLAM LTD	株式	南アフリカ	保険	172,452	469.30	80,933,207	419.55	72,352,306	1.67
15	ITAUSA-INVESTIMENTOS ITAU-PR	株式	ブラジル	銀行	356,704	216.80	77,336,994	197.50	70,450,823	1.63
16	LENOVO GROUP LTD	株式	香港	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	656,000	130.74	85,771,541	105.77	69,390,499	1.60
17	HENGAN INTL GROUP CO LTD	株式	ケイマン諸島	家庭用品・パーソナル用品	66,000	1,210.55	79,896,663	1,034.51	68,278,122	1.58
18	SIAM COMMERCIAL BANK-FOREIGN	株式	タイ	銀行	157,300	438.10	68,913,130	427.99	67,322,827	1.55
19	ULTRAPAR PARTICIPACOES SA	株式	ブラジル	エネルギー	37,346	1,888.91	70,543,606	1,711.90	63,932,916	1.47
20	WOOLWORTHS HOLDINGS LTD	株式	南アフリカ	小売	86,123	742.19	63,920,095	671.54	57,835,832	1.33
21	THAI BEVERAGE PCL	株式	タイ	食品・飲料・タバコ	852,400	57.60	49,100,626	58.02	49,461,660	1.14
22	SHOPRITE HOLDINGS LTD	株式	南アフリカ	食品・生活必需品小売り	40,456	1,028.88	41,624,499	1,038.65	42,019,859	0.97
23	AYALA LAND INC	株式	フィリピン	不動産	541,600	88.04	47,684,630	77.16	41,792,564	0.96
24	LARSEN & TOUBRO LTD	株式	インド	資本財	20,738	2,410.11	49,981,068	1,912.60	39,663,706	0.91
25	ASIAN PAINTS LTD	株式	インド	素材	25,758	1,510.41	38,905,373	1,528.93	39,382,205	0.91
26	SK HOLDINGS CO LTD	株式	韓国	資本財	1,657	26,907.19	44,585,230	23,092.00	38,263,444	0.88
27	MEDICLINIC INTERNATIONAL LTD	株式	南アフリカ	ヘルスケア機器・サービス	42,070	820.97	34,538,334	902.65	37,974,906	0.88
28	KIMBERLY-CLARK DE MEXICO-A	株式	メキシコ	家庭用品・パーソナル用品	134,043	260.04	34,856,730	280.93	37,656,928	0.87
29	AMOREPACIFIC GROUP	株式	韓国	家庭用品・パーソナル用品	2,413	16,264.79	39,246,962	14,558.00	35,128,454	0.81
30	HYUNDAI MOTOR CO LTD-2ND PRF	株式	韓国	自動車・自動車部品	3,411	11,295.00	38,527,245	10,090.19	34,417,672	0.79

(注1) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価比率をいいます。

(注2) 国/地域は、投資有価証券の発行国/地域に基づいて表示しています。なお、マザーファンドでは、「ラッセル新興国株インデックス」の構成国/地域を投資対象ユニバースとすることから、「第1 ファンドの状況 5 運用状況(参考情報)」では、投資有価証券の国/地域を「ラッセル新興国株インデックス」の国/地域分類に基づいて表示しています。そのため、上記表との間で国/地域の表示が異なる場合があります。

(注3) 業種は、世界産業分類(GICS 24産業グループ)で区分しています。なお、「第1 ファンドの状況 5 運用状況(参考情報)」では世界産業分類(GICS 10セクター)で区分しています。そのため、上記表との間で業種の表示が異なる場合があります。

投資有価証券種類別および業種別投資比率

国内/外国	種類	業種	投資比率(%)
-------	----	----	---------

外国	株式	エネルギー	6.38
		素材	4.30
		資本財	4.25
		商業・専門サービス	0.16
		運輸	0.47
		自動車・自動車部品	13.06
		耐久消費財・アパレル	1.37
		消費者サービス	0.85
		メディア	0.47
		小売	2.87
		食品・生活必需品小売り	2.01
		食品・飲料・タバコ	4.19
		家庭用品・パーソナル用品	4.73
		ヘルスケア機器・サービス	2.07
		医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.03
		銀行	24.56
		各種金融	5.80
		保険	2.49
		不動産	1.56
		ソフトウェア・サービス	8.60
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.21		
電気通信サービス	3.02		
公益事業	1.46		
半導体・半導体製造装置	0.51		
合計		98.42	

(注1) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の時価比率をいいます。

(注2) 業種は、世界産業分類（GICS 24産業グループ）で区分しています。なお、「第1 ファンドの状況 5 運用状況（参考情報）」では世界産業分類（GICS 10セクター）で区分しています。そのため、上記表との間で業種の表示が異なる場合があります。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成28年1月末日および同日1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

Aコース（米ドル円ヘッジ）

特定期間	計算期間	年月日	純資産総額(円)		1口当たり純資産額(円)	
			(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1特定期間	1期	(平成24年12月3日)	10,060,985	10,309,308	1.0129	1.0379
第2特定期間	2期	(平成25年3月4日)	4,460,114	4,613,786	1.0158	1.0508
	3期	(平成25年6月3日)	21,005,582	21,005,582	0.9985	0.9985
第3特定期間	4期	(平成25年9月3日)	19,971,430	19,971,430	0.9507	0.9507
	5期	(平成25年12月3日)	21,543,696	21,758,862	1.0013	1.0113
第4特定期間	6期	(平成26年3月3日)	21,919,715	21,919,715	0.9502	0.9502
	7期	(平成26年6月3日)	8,563,538	8,649,031	1.0017	1.0117
第5特定期間	8期	(平成26年9月3日)	7,779,085	8,086,938	1.0108	1.0508
	9期	(平成26年12月3日)	14,119,026	14,119,026	0.9555	0.9555
第6特定期間	10期	(平成27年3月3日)	8,504,947	8,504,947	0.9639	0.9639
	11期	(平成27年6月3日)	8,248,430	8,248,430	0.9493	0.9493
第7特定期間	12期	(平成27年9月3日)	8,864,981	8,864,981	0.7970	0.7970
	13期	(平成27年12月3日)	7,126,483	7,126,483	0.8006	0.8006

		平成27年1月末日	8,389,169		0.9499	
		平成27年2月末日	8,562,224		0.9704	
		平成27年3月末日	8,560,635		0.9602	
		平成27年4月末日	8,714,865		1.0036	
		平成27年5月末日	8,372,166		0.9635	
		平成27年6月末日	8,746,990		0.9277	
		平成27年7月末日	8,986,220		0.8881	
		平成27年8月末日	9,052,096		0.8138	
		平成27年9月末日	8,889,115		0.7816	
		平成27年10月末日	9,351,166		0.8270	
		平成27年11月末日	7,165,865		0.8051	
		平成27年12月末日	5,935,038		0.7750	
		平成28年1月末日	5,479,511		0.7183	

Bコース(為替ヘッジなし)

特定期間	計算期間	年月日	純資産総額(円)		1口当たり純資産額(円)	
			(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1特定期間	1期	(平成24年12月3日)	59,609,796	63,986,798	1.0214	1.0964
第2特定期間	2期	(平成25年3月4日)	155,017,156	174,762,878	1.0598	1.1948
	3期	(平成25年6月3日)	799,764,641	878,463,097	1.0162	1.1162
第3特定期間	4期	(平成25年9月3日)	1,223,206,995	1,223,206,995	0.9519	0.9519
	5期	(平成25年12月3日)	1,123,234,156	1,162,242,823	1.0078	1.0428
第4特定期間	6期	(平成26年3月3日)	973,981,048	973,981,048	0.9429	0.9429
	7期	(平成26年6月3日)	694,787,953	703,801,039	1.0021	1.0151
第5特定期間	8期	(平成26年9月3日)	559,748,934	592,659,048	1.0205	1.0805
	9期	(平成26年12月3日)	510,891,150	548,465,298	1.0198	1.0948
第6特定期間	10期	(平成27年3月3日)	442,794,547	453,734,027	1.0119	1.0369
	11期	(平成27年6月3日)	406,388,724	416,470,726	1.0077	1.0327
第7特定期間	12期	(平成27年9月3日)	314,220,609	314,220,609	0.8223	0.8223
	13期	(平成27年12月3日)	299,905,693	299,905,693	0.8443	0.8443
		平成27年1月末日	461,596,079		1.0067	
		平成27年2月末日	466,071,481		1.0371	
		平成27年3月末日	428,919,690		1.0088	
		平成27年4月末日	424,767,435		1.0462	
		平成27年5月末日	421,486,605		1.0444	
		平成27年6月末日	395,339,063		0.9724	
		平成27年7月末日	373,662,222		0.9441	
		平成27年8月末日	322,632,324		0.8442	
		平成27年9月末日	313,846,079		0.8014	
		平成27年10月末日	311,460,186		0.8558	
		平成27年11月末日	305,103,692		0.8458	
		平成27年12月末日	274,394,096		0.7999	
		平成28年1月末日	247,797,798		0.7411	

【分配の推移】

Aコース(米ドル円ヘッジ)

特定期間	計算期間	1口当たりの分配金(円)
第1特定期間	1期	0.0250
第2特定期間	2期	0.0350
	3期	0.0000
第3特定期間	4期	0.0000
	5期	0.0100
第4特定期間	6期	0.0000
	7期	0.0100
第5特定期間	8期	0.0400
	9期	0.0000

第6 特定期間	10期	0.0000
	11期	0.0000
第7 特定期間	12期	0.0000
	13期	0.0000

Bコース（為替ヘッジなし）

特定期間	計算期間	1口当たりの分配金(円)
第1 特定期間	1 期	0.0750
第2 特定期間	2 期	0.1350
	3 期	0.1000
第3 特定期間	4 期	0.0000
	5 期	0.0350
第4 特定期間	6 期	0.0000
	7 期	0.0130
第5 特定期間	8 期	0.0600
	9 期	0.0750
第6 特定期間	10期	0.0250
	11期	0.0250
第7 特定期間	12期	0.0000
	13期	0.0000

【収益率の推移】

Aコース（米ドル円ヘッジ）

特定期間	計算期間	収益率(%)
第1 特定期間	1 期	3.8
第2 特定期間	2 期	3.7
	3 期	1.7
第3 特定期間	4 期	4.8
	5 期	6.4
第4 特定期間	6 期	5.1
	7 期	6.5
第5 特定期間	8 期	4.9
	9 期	5.5
第6 特定期間	10期	0.9
	11期	1.5
第7 特定期間	12期	16.0
	13期	0.5

（注1）収益率は、各計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を、前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて算出しています。

（注2）収益率は、小数点第2位を四捨五入しています。

Bコース（為替ヘッジなし）

特定期間	計算期間	収益率(%)
第1 特定期間	1 期	9.6
第2 特定期間	2 期	17.0
	3 期	5.3
第3 特定期間	4 期	6.3
	5 期	9.5
第4 特定期間	6 期	6.4
	7 期	7.7
第5 特定期間	8 期	7.8
	9 期	7.3
第6 特定期間	10期	1.7
	11期	2.1
第7 特定期間	12期	18.4
	13期	2.7

（注1）収益率は、各計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配額の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を、前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて算出しています。

（注2）収益率は、小数点第2位を四捨五入しています。

（参考情報）

以下は金融商品取引法第15条第2項に規定する目論見書（交付目論見書）に掲載している運用実績の情報です。（平成28年1月29日現在）

基準価額・純資産の推移(設定日(2012年9月28日)～2016年1月29日)

Aコース(米ドル円ヘッジ)



Bコース(為替ヘッジなし)



※基準価額および分配金再投資基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後のものです。

※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

分配の推移

決算期	Aコース(米ドル円ヘッジ)
第9期 (2014年12月)	0円
第10期 (2015年3月)	0円
第11期 (2015年6月)	0円
第12期 (2015年9月)	0円
第13期 (2015年12月)	0円
設定来累計	1,200円

決算期	Bコース(為替ヘッジなし)
第9期 (2014年12月)	750円
第10期 (2015年3月)	250円
第11期 (2015年6月)	250円
第12期 (2015年9月)	0円
第13期 (2015年12月)	0円
設定来累計	5,430円

※分配金は1万口当たり、税引前。

主要な資産の状況 -ラッセル新興国増記継続株マザーファンド-

資産状況

	比率
株式等	98.4%
現金等	1.6%
合計	100.0%

※各比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

※「株式等」には、実質的に株式に近い動きをする株式関連金融商品等を含みます。

※「現金等」には、100%から「株式等」を差し引いた値を記載しています。

※国・地域は「ラッセル新興国株インデックス」の分類で区分しています。

※業種は世界産業分類(GICS10セクター)で区分しています。

※比率は各項目で四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

国・地域別比率

国・地域	比率
1 インド	20.3%
2 南アフリカ	16.0%
3 中国	15.4%
4 韓国	15.2%
5 ブラジル	8.4%
6 ロシア	4.9%
7 タイ	4.8%
8 コロンビア	2.7%
9 台湾	2.7%
10 インドネシア	2.3%
その他国・地域	5.6%
現金等	1.6%
合計	100.0%

通貨別比率

通貨	比率
1 インドルピー	20.3%
2 南アフリカランド	16.0%
3 韓国ウォン	15.4%
4 香港ドル	15.4%
5 ブラジルレアル	8.5%
6 米ドル	5.0%
7 タイバーツ	3.6%
8 コロンビアペソ	2.7%
9 新台幣ドル	2.7%
10 インドネシアルピア	2.3%
その他通貨	6.7%
日本円	1.2%
合計	100.0%

業種別比率

業種	比率
1 金融	34.4%
2 一般消費財・サービス	18.6%
3 情報技術	11.3%
4 生活必需品	10.9%
5 エネルギー	6.4%
6 資本財・サービス	4.9%
7 素材	4.3%
8 ヘルスケア	3.1%
9 電気通信サービス	3.0%
10 公益事業	1.5%
現金等	1.6%
合計	100.0%

組入上位10銘柄

	銘柄名	国・地域	通貨	業種	比率
1	ハウジング・ディベロップメント・ファイナンス(HDFC)	インド	インドルピー	金融	5.9%
2	テンセント・ホールディングス	中国	香港ドル	情報技術	5.8%
3	ノバテック(GDR)	ロシア	米ドル	エネルギー	4.9%
4	現代自動車	韓国	韓国ウォン	一般消費財・サービス	4.7%
5	現代モータース	韓国	韓国ウォン	一般消費財・サービス	4.4%
6	イタウ・ウニバンコ・ホールディング(優先株)	ブラジル	ブラジルレアル	金融	3.8%
7	中国建設銀行	中国	香港ドル	金融	3.7%
8	ICICI銀行	インド	インドルピー	金融	3.0%
9	MTN グループ	南アフリカ	南アフリカランド	電気通信サービス	2.8%
10	起亜自動車	韓国	韓国ウォン	一般消費財・サービス	2.7%

年間収益率の推移(3年ベース)※各ファンドにベンチマークはありません。

Aコース(米ドル円ヘッジ)



Bコース(為替ヘッジなし)



※各ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

※2012年は各ファンドの設定日(9月28日)から年末までの収益率、2016年は1月末までの収益率を表示しています。

- 各ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
- 最新の運用実績は委託会社のホームページで提供しております。

(4)【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績は以下のとおりです。

Aコース(米ドル円ヘッジ)

特定期間	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)
第1特定期間	1期	12,853,060	2,920,108
第2特定期間	2期	2,154,557	7,696,871
	3期	19,033,499	2,386,642
第3特定期間	4期	116,193	146,902
	5期	658,835	148,992
第4特定期間	6期	1,561,287	9,946
	7期	262,802	14,781,403
第5特定期間	8期	195,695	1,048,738
	9期	7,397,696	316,899
第6特定期間	10期	1,431,460	7,385,393
	11期	168,957	302,807
第7特定期間	12期	2,608,878	175,289
	13期	313,026	2,535,019

(注1) 本邦外における設定、解約の実績はありません。

(注2) 第1期の設定口数には当初募集期間中の設定口数を含みます。

Bコース(為替ヘッジなし)

特定期間	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)
第1特定期間	1期	94,174,547	35,814,520
第2特定期間	2期	118,692,405	30,787,819
	3期	689,723,268	49,003,317

第3特定期間	4期	563,679,063	65,712,723
	5期	24,512,194	194,929,730
第4特定期間	6期	56,983,886	138,529,568
	7期	8,927,163	348,600,534
第5特定期間	8期	17,618,004	162,430,404
	9期	40,955,701	88,468,964
第6特定期間	10期	36,386,247	99,795,675
	11期	7,114,295	41,413,429
第7特定期間	12期	6,472,990	27,609,201
	13期	13,224,566	40,151,816

(注1) 本邦外における設定、解約の実績はありません。

(注2) 第1期の設定口数には当初募集期間中の設定口数を含みます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

申込方法

取得申込者は、販売会社取引口座を開設のうえ、取得申込みを行うものとします。

なお、販売会社によっては、「Aコース（米ドル円ヘッジ）」もしくは「Bコース（為替ヘッジなし）」のどちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

取得申込者は、原則として、販売会社が定める日までに取得申込みにかかる金額を販売会社に支払うものとします。

当ファンドには、分配時に収益分配金を受け取る「一般コース」と、収益分配金が、税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。

なお、販売会社によってはどちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

「自動けいぞく投資コース」よりお申込みされる場合、取得申込者は、あらかじめ販売会社との間で自動けいぞく投資約款に従い収益分配金再投資に関する契約（以下「自動けいぞく投資契約」といいます。）を締結するものとします。なお、当該契約については、別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約または規定が用いられることがあり、この場合は当該別の名称に読み替えるものとします。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

取得申込みの受付

原則としていつでも取得申込みを行うことができます。ただし、ニューヨーク証券取引所およびロンドン証券取引所のいずれかの休業日は、スイッチングを含め、取得申込みの受付は行いません。

原則として、各営業日の午後3時までに販売会社が受付けた取得申込みを、当日の受付分とします。

この時刻を過ぎて行われる取得申込みは翌営業日の取扱いとなります。

上記の取得申込みの受付を行わない日を除きます。取得申込みの受付を行わない日は、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

基準価額については、販売会社または下記の照会先までお問い合わせください。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887（フリーダイヤル）（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ・アドレス> <http://www.russell.com/jpin/>

申込手数料

3.78%（税抜3.5%）を上限として販売会社が定める申込手数料率を、お申込口数、お申込金額等に応じて、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に乗じて得た額が申込手数料となります。

消費税等相当額を含みます。なお、税法が改正された場合等には、消費税等相当額が変更になることがあります。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合には、申込手数料はかかりません。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

申込単位

販売会社が定める単位とします。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合は、1口単位とします。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

スイッチング

「Aコース（米ドル円ヘッジ）」と「Bコース（為替ヘッジなし）」との間でスイッチングができます。

スイッチングにより取得申込みをする場合のファンドの発行価格は、取得申込受付日の翌営業日¹の基準価額とします。

ただし、販売会社によってはスイッチングの取扱いを行わない場合があります。

スイッチングにより換金されるファンドについては、通常の換金と同様に信託財産留保額および税金²がかかりますので、ご注意ください。

1 前述の の取得申込みの受付を行わない日を除きます。取得申込みの受付を行わない日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

2 税金については、「第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5)課税上の取扱い」をご参照ください。

その他

(a) 金融商品取引所等における取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます。）、決済機能の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（実質的な投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、委託会社の判断により、取得申込みの受付を中止することおよび既に受付けた取得申込みの受付を取消す場合があります。

(b) 取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）に定める事項の振替機関への通知を行うものとし、振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定に従い、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。委託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

2【換金（解約）手続等】

換金申込みの受付

原則としていつでも換金申込みを行うことができます。ただし、ニューヨーク証券取引所およびロンドン証券取引所のいずれかの休業日は、換金申込みの受付は行いません。

原則として、各営業日 の午後3時までに販売会社が受付けた換金申込みを、当日の受付分とします。

この時刻を過ぎて行われる換金申込みは翌営業日 の取扱いとなります。

上記の換金申込みの受付を行わない日を除きます。換金申込みの受付を行わない日は、販売会社または委託会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額（後述の「 信託財産留保額」をご参照ください。）を控除した価額（以下「換金価額」といいます。）とします。

なお、換金価額については、販売会社または下記の照会先までお問い合わせください。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887（フリーダイヤル）（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ・アドレス> <http://www.russell.com/jpin/>

換金（解約）手数料

ありません。

信託財産留保額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.3%の率を乗じて得た額とします。

換金単位

販売会社が定める単位とします。

詳細は販売会社にお問い合わせください。

換金代金の支払い

原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

その他

- (a) 「解約請求」または「買取請求」により換金の申込みができます。詳細は販売会社にお問い合わせください。
- (b) 当ファンドの資金管理を円滑に行うために、大口の換金には制限を設ける場合があります。
- (c) 金融商品取引所等における取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます。）、決済機能の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（実質的な投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、委託会社の判断により、換金申込みの受付を中止することおよび既に受付けた換金申込みの受付を取消す場合があります。この場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の換金申込みを撤回できます。ただし、受益者がその換金申込みを撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金申込みを受付けたものとして取扱います。
- (d) 「解約請求」を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。解約請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとしします。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額の計算方法

基準価額とは、純資産総額（信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および信託約款に規定する借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。）を計算日における受益権総口数で除して得た額をいいます。ただし、便宜上1万口当たりの価額で表示されることがあります。

主な投資対象の評価方法

当ファンドの主な投資対象の評価方法は以下のとおりです。

投資対象	評価方法
マザーファンド	原則として、当ファンドの基準価額計算日における基準価額で評価します。
株式	原則として、基準価額計算日の金融商品取引所の最終相場で評価します。
外貨建資産	原則として、基準価額計算日の対顧客電信売買相場の仲値で円換算を行います。

外国で取引されているものについては、原則として、基準価額計算日に知り得る直近の最終相場とします。

基準価額の照会方法等

基準価額は委託会社の営業日に算出されます。

基準価額については、販売会社または下記の照会先までお問い合わせください。また、基準価額は、原則として計算日（委託会社の営業日）の翌日付の日本経済新聞朝刊に略称（〔ラッセル〕の「新興国増配A」、「新興国増配B」）として掲載されます。

ラッセル・インベストメント株式会社

<電話番号> 0120-055-887（フリーダイヤル）（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

<ホームページ・アドレス> <http://www.russell.com/jpin/>

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

当ファンドの信託期間は、信託契約締結日（平成24年9月28日）から平成34年6月3日までとします。

ただし、後述の「(5)その他 信託の終了（繰上償還）」による場合、信託を終了することがあります。

なお、委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

(4)【計算期間】

原則として毎年3月4日から6月3日まで、6月4日から9月3日まで、9月4日から12月3日までおよび12月4日から翌年3月3日までとします。

ただし、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとします。

なお、第1期の計算期間は平成24年9月28日から平成24年12月3日までとし、最終計算期間の終了日は信託の終了日とします。

(5)【その他】

信託の終了(繰上償還)

- (a) 委託会社は、各ファンドの合計で信託財産の純資産総額が30億円を下回った場合、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- (b) 委託会社は、上記(a)の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- (c) 上記(b)の書面決議において、受益者(委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下、本(c)において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- (d) 上記(b)の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- (e) 上記(b)から(d)までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記(b)から(d)までの手続きを行うことが困難な場合には適用しません。
- (f) 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、信託契約を解約し、信託を終了させます。
- (g) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、後述の「信託約款の変更等」に規定する書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
- (h) 受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更等

- (a) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたは当ファンドと他のファンドとの併合(投信法第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は「信託約款の変更等」で定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- (b) 委託会社は、上記(a)の事項(上記(a)の変更事項にあつてはその変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、併合事項にあつてはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除き、以下、合わせて「重大な信託約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な信託約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- (c) 上記(b)の書面決議において、受益者(委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下、本(c)において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- (d) 上記(b)の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- (e) 書面決議の効力は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。

- (f) 上記(b)から(e)までの規定は、委託会社が重大な信託約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- (g) 上記(a)から(f)の規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合であっても、当該併合にかかる一または複数の他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行うことはできません。
- (h) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、上記(a)から(g)の規定に従います。

反対受益者の受益権買取請求の不適用

当ファンドは、受益者が一部解約の実行の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、繰上償還または重大な信託約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者（書面決議において当該繰上償還または重大な信託約款の変更等に反対した受益者をいいます。）による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

関係法人との契約の更改等

(a) 募集・販売の取扱い等に関する契約

委託会社と販売会社との間で締結される「募集・販売の取扱い等に関する契約書」は、当該契約終了の3ヵ月前までに当事者の一方からの別段の意思表示のないときは、原則1年毎に自動的に更新されるものとします。

(b) 運用指図に関する権限委託契約

委託会社と外部委託先運用会社との間で締結される「Aコース（米ドル円ヘッジ）」およびマザーファンドの運用指図に関する権限委託契約は、当事者の一方の相手方に対して30日前の書面による解約の意思表示の通知がなされた場合、契約が終了します。ただし、当該契約は「Aコース（米ドル円ヘッジ）」およびマザーファンドの償還日に終了するものとします。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ（<http://www.russell.com/jpin/>）に掲載します。ただし、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

運用報告書

- (a) 委託会社は、毎決算時および償還時に、計算期間中の運用経過のほか信託財産の内容、費用明細などのうち重要な事項を記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
- (b) 委託会社は、運用報告書（全体版）を作成し、委託会社のホームページ（<http://www.russell.com/jpin/>）に掲載します。
- (c) 上記(b)の規定にかかわらず、受益者からの運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。

信託期間の延長

委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときは、受託者と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

4【受益者の権利等】

受益者の主な権利の内容は次の通りです。

収益分配金請求権

受益者は、委託会社が決定した収益分配金を自己に帰属する受益権の持分に依りて請求することができます。

販売会社は、毎計算期間終了日（決算日）において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に対する収益分配金の支払いを、原則として決算日（当該決算日が休業日の場合は翌営業日とします。）から起算して5営業日目までに開始するものとします。

受益者は、収益分配金を支払開始日から5年間支払請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

「自動けいぞく投資コース」をお申込みの場合、収益分配金は、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として決算日の翌営業日に販売会社に交付されます。販売会社は別に定める契約に基づき、受益者に対して遅延なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該売付により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金請求権

受益者は、当ファンドの信託終了後、口数に応じて償還金を請求することができます。販売会社は、信託終了日（償還日）において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託会社の指定する販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に対する償還金の支払いを、原則として償還日（当該償還日が休業日の場合は翌営業日とします。）から起算して5営業日目までに開始するものとします。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。ただし、受益者が償還金の支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属するものとします。

換金請求権

受益者は、保有する受益権について、一部解約の実行を請求すること、または買取りを請求することにより換金する権利を有します。詳細は、前述の「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」をご参照ください。

帳簿閲覧請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧ならびに謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- (1) ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) ファンドの計算期間は、6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月ごとに作成しております。
- (3) ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間(平成27年6月4日から平成27年12月3日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【ラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース（米ドル円ヘッジ）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 平成27年 6月 3日現在	当期 平成27年12月 3日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	269,454	284,688
親投資信託受益証券	8,275,185	6,869,730
派生商品評価勘定	794	15,190
流動資産合計	8,545,433	7,169,608
資産合計		
8,545,433		
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	256,221	827
未払受託者報酬	1,172	1,223
未払委託者報酬	37,331	39,146
その他未払費用	2,279	1,929
流動負債合計	297,003	43,125
負債合計		
297,003		
純資産の部		
元本等		
元本	8,689,340	8,900,936
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	440,910	1,774,453
（分配準備積立金）	96,504	109,803
元本等合計	8,248,430	7,126,483
純資産合計		
8,248,430		
負債純資産合計		
8,545,433		

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前期		当期	
	自	平成26年12月 4日 至 平成27年 6月 3日	自	平成27年 6月 4日 至 平成27年12月 3日
営業収益				
受取利息		5		1
有価証券売買等損益		260,319		1,435,593
為替差損益		384,839		42,376
営業収益合計		124,515		1,393,216
営業費用				
受託者報酬		2,395		2,418
委託者報酬		76,277		77,453
その他費用		4,542		15,119
営業費用合計		83,214		94,990
営業利益又は営業損失()		207,729		1,488,206
経常利益又は経常損失()		207,729		1,488,206
当期純利益又は当期純損失()		207,729		1,488,206
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		155,282		47,769
期首剰余金又は期首欠損金()		658,097		440,910
剰余金増加額又は欠損金減少額		355,654		526,770
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		355,654		526,770
剰余金減少額又は欠損金増加額		86,020		324,338
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		86,020		324,338
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		440,910		1,774,453

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、原則として特定期間末日において発表されている対顧客先物相場の仲値によっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前期	当期
	平成27年 6月 3日現在	平成27年12月 3日現在
1. 期首元本額	14,777,123円	8,689,340円
期中追加設定元本額	1,600,417円	2,921,904円
期中一部解約元本額	7,688,200円	2,710,308円
2. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は440,910円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は1,774,453円であります。
3. 特定期間末日における受益権の総数	8,689,340口	8,900,936口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期	当期
自 平成26年12月 4日	自 平成27年 6月 4日
至 平成27年 6月 3日	至 平成27年12月 3日

<p>1. 分配金の計算過程 (平成26年12月4日から平成27年3月3日までの分配金計算期間) 計算期間末日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(16,580円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(88,635円)及び分配準備積立金(55,037円)より分配対象収益は160,252円(1万口当たり181.61円)ですが、分配を行っておりません。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p> <p>(平成27年3月4日から平成27年6月3日までの分配金計算期間) 計算期間末日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(27,120円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(89,131円)及び分配準備積立金(69,384円)より分配対象収益は185,635円(1万口当たり213.62円)ですが、分配を行っておりません。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p> <p>2. 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として、当該委託を受けた者と委託者の間で別に定める取決めに基づく金額を、委託者報酬の中から支弁しております。</p>	<p>1. 分配金の計算過程 (平成27年6月4日から平成27年9月3日までの分配金計算期間) 計算期間末日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(29,867円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(149,466円)及び分配準備積立金(95,440円)より分配対象収益は274,773円(1万口当たり247.01円)ですが、分配を行っておりません。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p> <p>(平成27年9月4日から平成27年12月3日までの分配金計算期間) 計算期間末日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(11,135円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(122,683円)及び分配準備積立金(98,668円)より分配対象収益は232,486円(1万口当たり261.17円)ですが、分配を行っておりません。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p> <p>2. 同左</p>
--	---

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及びそのリスク	<p>当ファンドが保有する主な金融商品は、売買目的で保有する親投資信託受益証券とデリバティブ取引等であります。</p> <p>親投資信託受益証券を主要投資対象として運用を行うため、親投資信託受益証券と同様のリスクに晒されております。</p> <p>親投資信託受益証券には、株価変動リスク、株式の発行会社の信用リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、流動性リスク、市場動向と乖離するリスクがあり、当該リスクは結果的に当ファンドに影響を及ぼします。</p> <p>デリバティブ取引等には為替予約取引が含まれており、為替変動リスクがあります。デリバティブ取引等は、信託財産に属する資産の効率的な運用、または将来の価格変動リスク及び為替変動リスクを回避し、安定的な利益確保を図ることを目的としております。</p>

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>当ファンドが投資対象とする親投資信託受益証券及びデリバティブ取引等は、運用を外部に委託しております。投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部委託先運用会社は、運用の詳細を定めた運用ガイドラインを遵守し、運用ガイドラインに違反した場合は直ちに委託会社に報告します。 ・運用部およびインベストメント・ディベロプメント部は、外部委託先運用会社の運用ガイドラインの遵守状況等をモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社に運用ガイドライン違反の有無を確認し、その結果を投資政策・運用委員会に報告します。 ・法務・コンプライアンス部はファンド全体の管理を行い、主に信託約款、法令等の遵守状況を中心にモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社から法令遵守状況を確認します。
-------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	前期 平成27年 6月 3日現在	当期 平成27年12月 3日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、原則として特定期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引等に関する事項	<p>有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品</p> <p>有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。</p> <p>有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>デリバティブ取引等 「（デリバティブ取引等に関する注記）」の「取引の時価等に関する事項」に記載しております。</p>	<p>有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品 同左</p> <p>有価証券 同左</p> <p>デリバティブ取引等 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引等に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引等における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引等のリスクの大きさを示すものではありません。</p>	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(単位：円)

区 分	前期 平成27年 6月 3日現在	当期 平成27年12月 3日現在
種 類	最終計算期間の損益に含まれた評価差額	最終計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託 受益証券	204,858	223,103
合 計	204,858	223,103

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

通貨関連 前期(平成27年 6月 3日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等	うち1年超		時価	評価損益
市場取引以外 の取引	為替予約取引 買建	407,363	-		408,157	794
	米ドル	407,363	-		408,157	794
	売建	8,511,099	-		8,767,320	256,221
	米ドル	8,511,099	-		8,767,320	256,221
合計		8,918,462	-		9,175,477	255,427

通貨関連 当期(平成27年12月 3日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等	うち1年超		時価	評価損益
市場取引以外 の取引	為替予約取引 買建	2,476,692	-		2,483,106	6,414
	米ドル	2,476,692	-		2,483,106	6,414
	売建	9,345,466	-		9,337,517	7,949
	米ドル	9,345,466	-		9,337,517	7,949
合計		11,822,158	-		11,820,623	14,363

(注)1. 為替予約の評価方法

(1)特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該対顧客先物相場の仲値で評価しております。

特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・特定期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算しております。
- ・特定期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

(2)特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、特定期間末日の対顧客電信相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。

(関連当事者との取引に関する注記)

前期	当期
自 平成26年12月 4日	自 平成27年 6月 4日
至 平成27年 6月 3日	至 平成27年12月 3日

該当事項はありません。	同左
-------------	----

(1口当たり情報に関する注記)

区 分	前期	当期
	平成27年 6月 3日現在	平成27年12月 3日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.9493円 (9,493円)	0.8006円 (8,006円)

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

次表の通りです。

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	ラッセル新興国増配継続株 マザーファンド	4,426,658	6,869,730	-
合計		4,426,658	6,869,730	-

(注)親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等に関する注記)」に記載しております。

【ラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース（為替ヘッジなし）】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 平成27年 6月 3日現在	当期 平成27年12月 3日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	14,238,211	7,272,399
親投資信託受益証券	405,584,249	294,337,690
未収入金	-	4,468,735
未収利息	11	1
流動資産合計	419,822,471	306,078,825
資産合計	419,822,471	306,078,825
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	10,082,002	-
未払解約金	1,320,228	4,683,224
未払受託者報酬	58,125	42,663
未払委託者報酬	1,859,982	1,365,117
その他未払費用	113,410	82,128
流動負債合計	13,433,747	6,173,132
負債合計	13,433,747	6,173,132
純資産の部		
元本等		
元本	403,280,090	355,216,629
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	3,108,634	55,310,936
（分配準備積立金）	2,494,420	4,487,906
元本等合計	406,388,724	299,905,693
純資産合計	406,388,724	299,905,693
負債純資産合計	419,822,471	306,078,825

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前期		当期	
	自	平成26年12月 4日 至 平成27年 6月 3日	自	平成27年 6月 4日 至 平成27年12月 3日
営業収益				
受取利息		2,231		1,048
有価証券売買等損益		20,375,057		60,507,148
営業収益合計		20,377,288		60,506,100
営業費用				
受託者報酬		119,276		94,188
委託者報酬		3,816,772		3,013,827
その他費用		234,249		167,558
営業費用合計		4,170,297		3,275,573
営業利益又は営業損失()		16,206,991		63,781,673
経常利益又は経常損失()		16,206,991		63,781,673
当期純利益又は当期純損失()		16,206,991		63,781,673
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		27,338		1,145,116
期首剰余金又は期首欠損金()		9,902,498		3,108,634
剰余金増加額又は欠損金減少額		139,473		7,193,189
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		7,193,189
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		139,473		-
剰余金減少額又は欠損金増加額		2,146,184		2,976,202
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		2,128,676		150,219
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		17,508		2,825,983
分配金		21,021,482		-
期末剰余金又は期末欠損金()		3,108,634		55,310,936

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
-----------------	--

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前期	当期
	平成27年 6月 3日現在	平成27年12月 3日現在
1. 期首元本額	500,988,652円	403,280,090円
期中追加設定元本額	43,500,542円	19,697,556円
期中一部解約元本額	141,209,104円	67,761,017円
2. 元本の欠損	-	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は55,310,936円であります。
3. 特定期間末日における受益権の総数	403,280,090口	355,216,629口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期	当期
自 平成26年12月 4日 至 平成27年 6月 3日	自 平成27年 6月 4日 至 平成27年12月 3日
<p>分配金の計算過程 (平成26年12月4日から平成27年3月3日までの分配金計算期間) 計算期間末日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,073,083円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(6,895,651円)、信託約款に規定される収益調整金(2,834,631円)及び分配準備積立金(7,657,714円)より分配対象収益は18,461,079円(1万口当たり421.88円)であり、うち10,939,480円(1万口当たり250.00円)を分配金額としております。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p> <p>(平成27年3月4日から平成27年6月3日までの分配金計算期間) 計算期間末日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(2,682,334円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(5,583,261円)、信託約款に規定される収益調整金(2,705,112円)及び分配準備積立金(4,310,827円)より分配対象収益は15,281,534円(1万口当たり378.92円)であり、うち10,082,002円(1万口当たり250.00円)を分配金額としております。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p>	<p>分配金の計算過程 (平成27年6月4日から平成27年9月3日までの分配金計算期間) 計算期間末日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,591,782円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,625,012円)及び分配準備積立金(2,383,269円)より分配対象収益は6,600,063円(1万口当たり172.70円)であり、分配を行っておりません。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p> <p>(平成27年9月4日から平成27年12月3日までの分配金計算期間) 計算期間末日における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(890,318円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,579,665円)及び分配準備積立金(3,597,588円)より分配対象収益は7,067,571円(1万口当たり198.95円)であり、分配を行っておりません。 なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当金等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p>

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及びそのリスク	<p>当ファンドが保有する主な金融商品は、売買目的で保有する親投資信託受益証券であります。</p> <p>親投資信託受益証券を主要投資対象として運用を行うため、親投資信託受益証券と同様のリスクに晒されております。</p> <p>親投資信託受益証券には、株価変動リスク、株式の発行会社の信用リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、流動性リスク、市場動向と乖離するリスクがあり、当該リスクは結果的に当ファンドに影響を及ぼします。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>当ファンドが投資対象とする親投資信託受益証券は、運用を外部に委託しております。投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部委託先運用会社は、運用の詳細を定めた運用ガイドラインを遵守し、運用ガイドラインに違反した場合は直ちに委託会社に報告します。 ・ 運用部及びインベストメント・ディベロプメント部は、外部委託先運用会社の運用ガイドラインの遵守状況等をモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社に運用ガイドライン違反の有無を確認し、その結果を投資政策・運用委員会に報告します。 ・ 法務・コンプライアンス部はファンド全体の管理を行い、主に信託約款、法令等の遵守状況を中心にモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社から法令遵守状況を確認します。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	前期 平成27年 6月 3日現在	当期 平成27年12月 3日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、原則として特定期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項	<p>有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。</p> <p>有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p>	<p>有価証券以外の金融商品 同左</p> <p>有価証券 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

（単位：円）

区 分	前期 平成27年 6月 3日現在	当期 平成27年12月 3日現在
種 類	最終計算期間の損益に含まれた評価差額	最終計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託 受益証券	10,282,727	9,615,903
合 計	10,282,727	9,615,903

（デリバティブ取引等に関する注記）

前期 平成27年 6月 3日現在	当期 平成27年12月 3日現在
該当事項はありません。	同左

（関連当事者との取引に関する注記）

前期 自 平成26年12月 4日 至 平成27年 6月 3日	当期 自 平成27年 6月 4日 至 平成27年12月 3日
該当事項はありません。	同左

（1口当たり情報に関する注記）

区 分	前期 平成27年 6月 3日現在	当期 平成27年12月 3日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0077円 (10,077円)	0.8443円 (8,443円)

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

次表の通りです。

（単位：円）

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	ラッセル新興国増配継続株 マザーファンド	189,662,794	294,337,690	-
合計		189,662,794	294,337,690	-

(注)親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考情報）

「ラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース（米ドル円ヘッジ）」及び「ラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース（為替ヘッジなし）」は、「ラッセル新興国増配継続株マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券です。なお、同親投資信託の状況は次の通りです。

「ラッセル新興国増配継続株マザーファンド」の状況
 なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

（単位：円）

区 分	平成27年 6月 3日現在	平成27年12月 3日現在
	金 額	金 額
資産の部		
流動資産		
預金	64,061,663	70,359,715
コール・ローン	457,760,670	208,019,676
株式	8,835,885,703	5,607,814,671
投資証券	164,562,834	-
派生商品評価勘定	688,282	-
未収入金	263,329,155	109,266,430
未収配当金	17,026,575	3,620,660
未収利息	376	56
流動資産合計	9,803,315,258	5,999,081,208
資産合計	9,803,315,258	5,999,081,208
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	-	437,094
未払解約金	-	234,468,732
その他未払費用	1,853,657	1,095,976
流動負債合計	1,853,657	236,001,802
負債合計	1,853,657	236,001,802
純資産の部		
元本等		
元本	5,321,025,040	3,713,482,942
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	4,480,436,561	2,049,596,464
元本等合計	9,801,461,601	5,763,079,406
純資産合計	9,801,461,601	5,763,079,406
負債純資産合計	9,803,315,258	5,999,081,208

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の 評価基準及 び評価方法	<p>有価証券</p> <p>株式及び投資証券は移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融商品取引所等に上場されている有価証券 時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における開示対象ファンドの特定期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は開示対象ファンドの特定期間末日において知りうる直近の最終相場）で評価しております。 開示対象ファンドの特定期間末日に当該金融商品取引所等の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所等における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でない認められた場合は、当該金融商品取引所等における開示対象ファンドの特定期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。 ・金融商品取引所等に上場されていない有価証券 時価評価にあたっては、原則として日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融機関の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。 ・時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. デリバティブ等の評価 基準及び評 価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として開示対象ファンドの特定期間末日において発表されている対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. その他財務 諸表作成の ための基本 となる重要 な事項	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

平成27年 6月 3日現在		平成27年 12月 3日現在	
1. 本書における開示対象ファンドの期首における 当該親投資信託の元本額	10,309,343,046円	1. 本書における開示対象ファンドの期首における 当該親投資信託の元本額	5,321,025,040円
期中追加設定元本額	1,140,097,041円	期中追加設定元本額	204,777,490円
期中一部解約元本額	6,128,415,047円	期中一部解約元本額	1,812,319,588円
元本の内訳		元本の内訳	
新興国連続増配成長株ファンド		新興国連続増配成長株ファンド	
（適格機関投資家限定）	5,096,345,651円	（適格機関投資家限定）	3,519,393,490円
ラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース		ラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース	
（米ドル円ヘッジ）	4,492,500円	（米ドル円ヘッジ）	4,426,658円
ラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース		ラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース	
（為替ヘッジなし）	220,186,889円	（為替ヘッジなし）	189,662,794円
計	5,321,025,040円	計	3,713,482,942円

2. 本書における開示対象ファンドの特定期間末日における受益権の総数	5,321,025,040口	2. 本書における開示対象ファンドの特定期間末日における受益権の総数	3,713,482,942口
------------------------------------	----------------	------------------------------------	----------------

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及びそのリスク	<p>当ファンドが保有する主な金融商品は、有価証券及びデリバティブ取引等であり、投資対象とする金融商品は、株価変動リスク、株式の発行会社の信用リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、流動性リスク、市場動向と乖離するリスクに晒されております。</p> <p>デリバティブ取引等には、通貨関連では為替予約取引が含まれております。デリバティブ取引等は、信託財産に属する資産の効率的な運用、または将来の価格変動リスク及び為替変動リスクを回避し、安定的な利益確保を図ることを目的としております。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>当ファンドは、運用を外部に委託しております。投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部委託先運用会社は、運用の詳細を定めた運用ガイドラインを遵守し、運用ガイドラインに違反した場合は直ちに委託会社に報告します。 運用部及びインベストメント・デベロップメント部は、外部委託先運用会社の運用ガイドラインの遵守状況等をモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社に運用ガイドライン違反の有無を確認し、その結果を投資政策・運用委員会に報告します。 法務・コンプライアンス部はファンド全体の管理を行い、主に信託約款、法令等の遵守状況を中心にモニタリングします。また、定期的に外部委託先運用会社から法令遵守状況を確認します。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	平成27年 6月 3日現在	平成27年12月 3日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、原則として開示対象ファンドの特定期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引等に関する事項	<p>有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品</p> <p>有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。</p> <p>有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>デリバティブ取引等</p>	<p>有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品</p> <p>同左</p> <p>有価証券 同左</p> <p>デリバティブ取引等</p>

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>「（デリバティブ取引等に関する注記）」の「取引の時価等に関する事項」に記載しております。</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引等に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引等における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引等のリスクの大きさを示すものではありません。</p>	同左 同左
----------------------------	--	--------------

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(単位：円)

区分	平成27年 6月 3日現在	平成27年12月 3日現在
種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	367,418,687	470,973,905
投資証券	3,178,022	-
合計	364,240,665	470,973,905

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

通貨関連（平成27年 6月 3日現在）

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	216,067,656	-	215,379,374	688,282
	南アフリカランド	216,067,656	-	215,379,374	688,282
合計		216,067,656	-	215,379,374	688,282

通貨関連（平成27年12月 3日現在）

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	60,294,009	-	60,731,103	437,094
	南アフリカランド	60,294,009	-	60,731,103	437,094
合計		60,294,009	-	60,731,103	437,094

(注) 1. 為替予約の評価方法

(1) 開示対象ファンドの特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

開示対象ファンドの特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該対顧客先物相場の仲値で評価しております。

開示対象ファンドの特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・開示対象ファンドの特定期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算しております。
- ・開示対象ファンドの特定期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

(2)開示対象ファンドの特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、開示対象ファンドの特定期間末日の対顧客電信相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。

（関連当事者との取引に関する注記）

自 平成26年12月 4日 至 平成27年 6月 3日	自 平成27年 6月 4日 至 平成27年12月 3日
該当事項はありません。	同左

（1口当たり情報に関する注記）

区 分	平成27年 6月 3日現在	平成27年12月 3日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.8420円 (18,420円)	1.5519円 (15,519円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

株式

次表の通りです。

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
米ドル	NOVATEK OAO-SPONS GDR REG S	24,654	90.30	2,226,256.20	
	COSTAMARE INC	4,317	11.61	50,120.37	
米ドル 計		28,971		2,276,376.57 (280,631,703)	
メキシコペソ	KIMBERLY-CLARK DE MEXICO-A	173,054	39.46	6,828,710.84	
	GRUPO ELEKTRA SAB DE CV	7,593	347.44	2,638,111.92	
	GENTERA SAB DE CV	108,589	32.00	3,474,848.00	
メキシコペソ 計		289,236		12,941,670.76 (96,286,030)	
ブラジルリアル	ULTRAPAR PARTICIPACOES SA	43,064	63.60	2,738,870.40	
	KLABIN SA-PREF	213,126	3.98	848,241.48	
	EZ TEC EMPREENDIMENTOS E PAR	8,770	12.94	113,483.80	
	ITAU UNIBANCO HOLDING S-PREF	277,405	27.10	7,517,675.50	
	ITAU UNIBANCO HOLDING SA	30,564	25.00	764,100.00	
	ITAUSA-INVESTIMENTOS ITAU SA	46,923	7.51	352,391.73	
	ITAUSA-INVESTIMENTOS ITAU-PR	356,704	7.30	2,603,939.20	
	TOTVS SA	12,766	35.10	448,086.60	

ブラジルリアル 計		989,322		15,386,788.71 (494,377,521)
コロンビアペソ	GRUPO ARGOS SA	33,048	14,900.00	492,415,200.00
	ALMACENES EXITO SA	31,902	11,040.00	352,198,080.00
	BANCOLOMBIA SA	28,713	20,580.00	590,913,540.00
	BANCOLOMBIA SA-PREF	48,128	21,500.00	1,034,752,000.00
	GRUPO DE INV SURAMERICANA	25,790	31,540.00	813,416,600.00
コロンビアペソ 計		167,581		3,283,695,420.00 (128,064,121)
トルコリラ	AKCANSI CIMENTO	5,675	13.95	79,166.25
	KOZA ALTIN ISLETMELERI AS	6,594	11.49	75,765.06
	BRISA BRIDGESTONE SABANCI	6,368	8.22	52,344.96
トルコリラ 計		18,637		207,276.27 (8,844,478)
ポーランドズロチ	SANOK RUBBER COMPANY SA	3,922	52.20	204,728.40
	ポーランドズロチ 計		3,922	
香港ドル	HUABAO INTERNATIONAL HOLDING	285,000	2.53	721,050.00
	CHINA STATE CONSTRUCTION INTL	174,000	12.22	2,126,280.00
	CIMC ENRIC HOLDINGS LTD	78,000	5.00	390,000.00
	HENGAN INTL GROUP CO LTD	80,000	78.05	6,244,000.00
	CHINA MEDICAL SYSTEM HOLDING	115,000	11.26	1,294,900.00
	LEE'S PHARMACEUTICAL HLDGS	45,500	8.51	387,205.00
	CHINA CONSTRUCTION BANK-H	2,562,000	5.40	13,834,800.00
	GUOTAI JUNAN INTERNATIONAL	315,000	2.78	875,700.00
	TENCENT HOLDINGS LTD	129,000	153.70	19,827,300.00
	LENOVO GROUP LTD	790,000	8.43	6,659,700.00
	APT SATELLITE HOLDINGS LTD	53,500	6.51	348,285.00
	CHINA GAS HOLDINGS LTD	220,000	10.90	2,398,000.00
	香港ドル 計		4,847,000	
シンガポールドル	THAI BEVERAGE PCL	1,077,100	0.68	737,813.50
	SILVERLAKE AXIS LTD	127,200	0.70	89,676.00
シンガポールドル 計		1,204,300		827,489.50 (72,231,558)
マレーシアリングット	AMMB HOLDINGS BHD	187,700	4.68	878,436.00
	BIMB HOLDINGS BHD	64,500	3.90	251,550.00
	HONG LEONG FINANCIAL GROUP	34,000	13.80	469,200.00
	AEON CREDIT SERVICE M BHD	9,000	12.38	111,420.00
	BURSA MALAYSIA BHD	48,900	8.35	408,315.00
	INARI AMERTRON BHD	72,700	4.14	300,978.00
マレーシアリングット 計		416,800		2,419,899.00 (70,080,275)

タイバーツ	MAJOR CINEPLEX GROUP-FOREIGN	71,200	31.50	2,242,800.00	
	COL PCL-FOREIGN	15,100	39.25	592,675.00	
	BANGKOK DUSIT MED SERVICE-FOREIGN	369,200	20.10	7,420,920.00	
	KRUNG THAI BANK PUB CO-FOREIGN	416,400	16.90	7,037,160.00	
	SIAM COMMERCIAL BANK-FOREIGN	157,300	130.00	20,449,000.00	
	TMB BANK PUBLIC CORP-FOREIGN	2,404,000	2.60	6,250,400.00	
	SAMART CORPORATION PCL-FOREIGN	79,700	16.60	1,323,020.00	
	JASMINE INTL PCL-FOREIGN	494,000	4.42	2,183,480.00	
	GLOW ENERGY PCL-FOREIGN	65,100	81.50	5,305,650.00	
	TTW PCL-FOREIGN SHARES	214,900	10.70	2,299,430.00	
タイバーツ 計		4,286,900		55,104,535.00 (189,559,600)	
フィリピンペソ	INTL CONTAINER TERM SVCS INC	114,530	75.00	8,589,750.00	
	JOLLIBEE FOODS CORP	50,860	206.80	10,517,848.00	
	RFM CORPORATION	41,000	4.20	172,200.00	
	AYALA LAND INC	672,100	34.80	23,389,080.00	
	VISTA LAND & LIFESCAPES INC	559,500	5.35	2,993,325.00	
	MANILA WATER COMPANY	132,100	24.50	3,236,450.00	
フィリピンペソ 計		1,570,090		48,898,653.00 (128,114,470)	
インドネシアルピア	INDOCEMENT TUNGGAL PRAKARSA	157,800	19,775.00	3,120,495,000.00	
	ARIWANA CITRAMULIA TBK PT	653,700	416.00	271,939,200.00	
	GLOBAL MEDIACOM TBK PT	1,054,600	820.00	864,772,000.00	
	MEDIA NUSANTARA CITRA TBK PT	778,700	1,725.00	1,343,257,500.00	
	INDOFOOD CBP SUKSES MAKMUR T	153,200	12,975.00	1,987,770,000.00	
	UNILEVER INDONESIA TBK PT	126,800	36,775.00	4,663,070,000.00	
	CIPUTRA SURYA PT	48,319	2,115.00	102,194,685.00	
	LIPPO KARAWACI TBK PT	1,871,200	1,355.00	2,535,476,000.00	
インドネシアルピア 計		4,844,319		14,888,974,385.00 (134,000,769)	
韓国ウォン	SK HOLDINGS CO LTD	2,191	268,000.00	587,188,000.00	
	HYUNDAI MOBIS CO LTD	7,928	244,500.00	1,938,396,000.00	
	HYUNDAI MOTOR CO	17,050	152,000.00	2,591,600,000.00	
	HYUNDAI MOTOR CO LTD-2ND PRF	3,411	112,500.00	383,737,500.00	
	KIA MOTORS CORP	28,376	55,300.00	1,569,192,800.00	
	HANA TOUR SERVICE INC	1,282	120,000.00	153,840,000.00	
	DONGSUH COMPANIES INC	3,391	35,100.00	119,024,100.00	
	AMOREPACIFIC GROUP	3,156	162,000.00	511,272,000.00	
	AMOREPACIFIC GROUP-PFD	509	92,600.00	47,133,400.00	
	SAMJIN PHARMACEUTICAL CO LTD	1,316	22,850.00	30,070,600.00	
	DONGWON DEVELOPMENT CO LTD	6,750	3,765.00	25,413,750.00	
	EUGENE TECHNOLOGY CO LTD	2,251	13,100.00	29,488,100.00	
	LEENO INDUSTRIAL INC	1,415	42,700.00	60,420,500.00	
韓国ウォン 計		79,026		8,046,776,750.00 (850,544,302)	

新台湾ドル	TECO ELECTRIC & MACHINERY	271,000	26.40	7,154,400.00	
	YUNGTAI ENGINEERING CO LTD	52,000	48.90	2,542,800.00	
	KD HOLDING CORP	3,000	165.50	496,500.00	
	KERRY TJ LOGISTICS CO LTD	36,000	38.40	1,382,400.00	
	YULON NISSAN MOTOR CO LTD	4,000	291.00	1,164,000.00	
	ECLAT TEXTILE COMPANY LTD	20,160	430.00	8,668,800.00	
	POYA INTERNATIONAL CO LTD	10,100	318.00	3,211,800.00	
	GRAPE KING BIO LTD	16,000	209.00	3,344,000.00	
	ST SHINE OPTICAL CO LTD	7,000	620.00	4,340,000.00	
	BOARDTEK ELECTRONICS CORP	20,000	32.75	655,000.00	
	FLEXIUM INTERCONNECT INC	36,657	94.00	3,445,758.00	
	POSIFLEX TECHNOLOGY INC	8,280	167.00	1,382,760.00	
	VANGUARD INTERNATIONAL SEMI	110,000	41.85	4,603,500.00	
	新台湾ドル 計	594,197		42,391,718.00	(159,392,859)

インドルピー	ASIAN PAINTS LTD	35,215	848.55	29,881,688.25
	ESSEL PROPACK LTD	4,665	157.30	733,804.50
	MAYUR UNIQUOTERS LTD	1,374	430.80	591,919.20
	PIDILITE INDUSTRIES LTD	15,223	551.70	8,398,529.10
	RATNAMANI METALS & TUBES LTD	1,134	558.25	633,055.50
	SUPREME INDUSTRIES LTD	4,994	650.65	3,249,346.10
	ADITYA BIRLA NUVO LTD	3,864	2,118.80	8,187,043.20
	CERA SANITARYWARE LTD	385	1,932.80	744,128.00
	EICHER MOTORS LTD	1,133	16,360.65	18,536,616.45
	FINOLEX CABLES LTD	4,541	246.75	1,120,491.75
	LARSEN & TOUBRO LTD	25,940	1,354.00	35,122,760.00
	EXIDE INDUSTRIES LTD	25,242	145.10	3,662,614.20
	SUNDRAM FASTENERS LTD	6,024	157.35	947,876.40
	LA OPALA RG LTD	1,632	590.90	964,348.80
	PAGE INDUSTRIES LTD	312	12,955.70	4,042,178.40
	SYMPHONY LTD	1,375	2,169.80	2,983,475.00
	TTK PRESTIGE LTD	458	4,127.60	1,890,440.80
	ITC LTD	221,956	349.40	77,551,426.40
	KAVERI SEED CO LTD	2,050	421.45	863,972.50
	DABUR INDIA LTD	48,437	283.90	13,751,264.30
	APOLLO HOSPITALS ENTERPRISE	10,875	1,379.35	15,000,431.25
	AJANTA PHARMA LTD	2,611	1,374.70	3,589,341.70
	DIVI'S LABORATORIES LTD	11,174	1,138.10	12,717,129.40
	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	141,176	1,211.75	171,070,018.00
	ICICI BANK LTD	304,633	270.40	82,372,763.20
	LIC HOUSING FINANCE LTD	29,471	479.35	14,126,923.85
	SOUTH INDIAN BANK LTD	108,052	20.80	2,247,481.60
	BAJAJ FINANCE LTD	2,111	5,572.65	11,763,864.15
	MAHINDRA & MAHINDRA FIN SECS	38,430	237.25	9,117,517.50
	SHRIRAM CITY UNION FINANCE	1,749	1,722.25	3,012,215.25
HCL TECHNOLOGIES LTD	62,423	859.65	53,661,931.95	
NIIT TECHNOLOGIES LTD	3,690	574.20	2,118,798.00	
PERSISTENT SYSTEMS LTD	7,374	668.85	4,932,099.90	
SJVN LTD	48,571	28.10	1,364,845.10	
インドルピー 計	1,178,294		600,952,339.70 (1,123,780,875)	

南アフリカランド	AFRICAN RAINBOW MINERALS LTD	18,644	41.19	767,946.36
	ASSORE LTD	4,089	64.60	264,149.40
	MONDI LTD	11,841	329.60	3,902,793.60
	MPACT LTD	23,829	45.08	1,074,211.32
	BLUE LABEL TELECOMS LTD	57,021	11.91	679,120.11
	FAMOUS BRANDS LTD	8,912	134.64	1,199,911.68
	SPUR CORP LTD	13,428	32.80	440,438.40
	MR PRICE GROUP LTD	21,482	198.50	4,264,177.00
	TRUWORTHS INTERNATIONAL LTD	46,159	92.16	4,254,013.44
	WOOLWORTHS HOLDINGS LTD	86,123	99.49	8,568,377.27
	SHOPRITE HOLDINGS LTD	52,927	137.92	7,299,691.84
	SPAR GROUP LIMITED/THE	17,294	186.64	3,227,752.16
	OCEANA GROUP LTD	5,655	113.00	639,015.00
	MEDICLINIC INTERNATIONAL LTD	56,952	110.05	6,267,567.60
	NEDBANK GROUP LTD	23,422	206.00	4,824,932.00
	CORONATION FUND MANAGERS LTD	27,718	59.88	1,659,753.84
	FIRSTSTRAND LTD	369,256	46.67	17,233,177.52
	INVESTEC LTD	25,637	120.88	3,099,000.56
	PSG GROUP LTD	13,413	253.49	3,400,061.37
	DISCOVERY LTD	42,580	142.00	6,046,360.00
SANLAM LTD	196,778	62.91	12,379,303.98	
SANTAM LTD	3,839	208.25	799,471.75	
EOH HOLDINGS LTD	12,367	152.30	1,883,494.10	
MTN GROUP LTD	143,631	146.77	21,080,721.87	
南アフリカランド 計		1,282,997		115,255,442.17 (988,891,693)
合計		21,801,592		5,607,814,671 (5,607,814,671)

株式以外の有価証券
該当事項はありません。

有価証券明細表注記

- 1.通貨種類毎の小計欄の()内は邦貨換算額であります。
- 2.合計金額欄の()内は外貨建有価証券に関わるもので、内書であります。
- 3.外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	合計金額に 対する比率
米ドル	株式 2銘柄	100.0%	5.0%
メキシコペソ	株式 3銘柄	100.0%	1.7%
ブラジルリアル	株式 8銘柄	100.0%	8.8%
コロンビアペソ	株式 5銘柄	100.0%	2.3%
トルコリラ	株式 3銘柄	100.0%	0.2%
ポーランドズロチ	株式 1銘柄	100.0%	0.1%
香港ドル	株式 12銘柄	100.0%	15.6%
シンガポールドル	株式 2銘柄	100.0%	1.3%
マレーシアリングット	株式 6銘柄	100.0%	1.2%
タイバーツ	株式 10銘柄	100.0%	3.4%

フィリピンペソ	株式	6銘柄	100.0%	2.3%
インドネシアルピア	株式	8銘柄	100.0%	2.4%
韓国ウォン	株式	13銘柄	100.0%	15.2%
新台幣ドル	株式	13銘柄	100.0%	2.8%
インドルピー	株式	34銘柄	100.0%	20.1%
南アフリカランド	株式	24銘柄	100.0%	17.6%

4. 通貨の表示

邦貨については円単位、外貨についてはその通貨の表記単位で表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等に関する注記)」に記載しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

以下は平成28年1月29日現在の当ファンドの現況です。

Aコース（米ドル円ヘッジ）

資産総額	5,681,714 円
負債総額	202,203 円
純資産総額(-)	5,479,511 円
発行済口数	7,628,487 口
1口当たり純資産額(/)	0.7183 円

Bコース（為替ヘッジなし）

資産総額	248,570,817 円
負債総額	773,019 円
純資産総額(-)	247,797,798 円
発行済口数	334,344,381 口
1口当たり純資産額(/)	0.7411 円

（参考）ラッセル新興国増配継続株マザーファンドの現況

以下は平成28年1月29日現在のマザーファンドの現況です。

純資産額計算書

資産総額	4,366,337,869 円
負債総額	31,307,064 円
純資産総額(-)	4,335,030,805 円
発行済口数	3,185,071,847 口
1口当たり純資産額(/)	1.3610 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1)名義書換の手続き等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2)受益者に対する特典

該当事項はありません。

(3)受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(4)受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(5)受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(6)償還金

償還金は、償還日において振替機関の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払います。

(7)質権口記載または記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1)資本金の額

平成28年1月末現在の委託会社の資本金の額：1,609.5百万円
 委託会社が発行する株式総数：40,000株
 発行済株式総数：34,090株
 直近5カ年における主な資本の額の増減：該当事項はありません。

(2)会社の機構

会社の意思決定機構

経営の意思決定機関として取締役会を置きます。取締役会は、取締役および執行役員職務の執行を監督し、会社の業務執行上重要な事項を決定します。その決議は、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行われます。取締役会は、原則として、代表取締役社長が招集し、議長となります。

取締役の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結のときまでとし、欠員の補欠として、または増員により選任された取締役の任期は、前任者の残存期間と同一とします。

代表取締役は、取締役会の決議によって選定します。代表取締役の中から、社長を選定します。代表取締役社長は、委託会社を代表し、全般の業務執行について指揮統括します。

更に、委託会社の業務執行にかかる重要事項を審議する機関として経営委員会、会社が持つリスクを一元的に監視、監督し、法令等遵守態勢を確立するための諮問機関としてリスク管理・コンプライアンス委員会を置きます。

投資運用の意思決定機構

投資方針の企画・立案は、マルチ・マネージャー運用（運用スタイルの異なる複数の外部委託先運用会社を組み合わせる運用）の場合は、運用部がラッセル・インベストメントグループからの助言等に基づいて行い、その他の場合は、運用部およびインベストメント・ディベロプメント部が行います。

投資方針については、代表取締役社長兼CEO、運用部長およびジェネラル・カウンセルを含む議決権を有する5名の委員と、議決権を有しない準委員で構成される投資政策・運用委員会によって審議、決定されます。

同委員会は投資政策・運用委員会規程に基づき、原則月に一度、資産評価・運用状況、運用ガイドライン遵守状況（外部委託先運用会社のガイドライン遵守状況を含みます。）等について、運用部、インベストメント・ディベロプメント部および法務・コンプライアンス部から報告を受けるとともに、その検証を行っています。

上記の体制等は平成28年1月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

委託会社は、投信法に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また、金融商品取引法に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務等を行っています。

平成28年1月末現在、委託会社の運用する証券投資信託（親投資信託は除きます。）は以下のとおりです。

種類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	32本	169,629,803,279円
単位型株式投資信託	0本	0円
追加型公社債投資信託	0本	0円
単位型公社債投資信託	0本	0円
合計	32本	169,629,803,279円

3【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

また、委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第17期事業年度(自平成26年1月1日至平成26年12月31日)の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間(自平成27年1月1日至平成27年6月30日)の中間財務諸表について、PwCあらた監査法人による中間監査を受けております。

なお、従来、委託会社が監査証明を受けているあらた監査法人は、平成27年7月1日に名称を変更し、PwCあらた監査法人となりました。

財務諸表

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	第16期 (平成25年12月31日現在)	第17期 (平成26年12月31日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	1,054,936	1,829,172
前払費用	36,735	32,885
未収委託者報酬	355,246	369,328
未収運用受託報酬	969,086	1,225,413
未収投資助言報酬	165,623	183,418
未収入金	2,957	2,524
短期貸付金	2 300,000	166,000
その他流動資産	20,311	31,742
流動資産合計	2,904,897	3,840,485
固定資産		
有形固定資産		
建物付属設備	124,842	116,235
器具備品	63,195	47,835
有形固定資産合計	1 188,037	164,071
無形固定資産		
ソフトウェア	7,037	4,249
無形固定資産合計	7,037	4,249
投資その他の資産		
長期差入保証金	157,890	152,730
長期貸付金	2 166,000	-
投資その他の資産合計	323,890	152,730
固定資産合計	518,965	321,051
資産合計	3,423,863	4,161,536

(単位：千円)

第16期
（平成25年12月31日現在）

第17期
（平成26年12月31日現在）

負債の部		
流動負債		
預り金	22,968	160,081
未払金		
未払手数料	56,147	47,189
未払委託調査費	420,322	456,795
未払委託計算費	6,759	6,390
その他未払金	231,363	291,468
未払金合計	714,593	801,843
未払費用	50,712	63,373
未払消費税等	103,471	194,313
未払法人税等	28,097	22,851
前受金	66,804	63,339
賞与引当金	406,306	439,838
リース債務	4,473	1,916
流動負債合計	1,397,428	1,747,558
固定負債		
資産除去債務	61,104	69,813
長期未払金	663,388	721,379
長期未払費用	383,499	13,848
長期リース債務	5,969	4,053
固定負債合計	1,113,962	809,095
負債合計	2,511,390	2,556,653
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,609,500	1,609,500
資本剰余金		
資本準備金	-	-
その他資本剰余金	-	-
資本剰余金合計	-	-
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	697,027	4,616
利益剰余金合計	697,027	4,616
株主資本合計	912,472	1,604,883
純資産合計	912,472	1,604,883
負債純資産合計	3,423,863	4,161,536

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第16期 （自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日）	第17期 （自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日）
営業収益		
委託者報酬	1,421,153	1,294,270

運用受託報酬	3,297,966	4,406,893
投資助言報酬	575,846	576,336
その他収益	347,835	541,505
営業収益合計	5,642,801	6,819,006
営業費用		
支払手数料	216,870	169,467
広告宣伝費	1,386	1,980
調査費		
委託調査費	2,357,275	2,901,034
図書費	4,376	1,485
調査費合計	2,361,651	2,902,520
委託計算費	72,421	68,197
営業雑経費		
通信費	12,830	9,148
印刷費	10,224	8,761
協会費	9,119	9,747
営業雑経費合計	32,175	27,656
営業費用合計	2,684,506	3,169,822
一般管理費		
給料		
役員報酬	92,935	136,108
給料・手当	1,102,319	1,025,169
賞与	176,289	342,802
賞与引当金繰入額	406,306	439,838
給料合計	1,777,850	1,943,919
福利厚生費	144,033	146,028
交際費	14,876	12,401
寄付金	2,477	2,814
旅費交通費	39,439	37,406
租税公課	25,001	18,238
不動産賃借料	189,577	175,130
退職給付費用	159,522	146,887
消耗器具備品費	325,827	324,330
事務委託費	29,608	35,310
修繕費	11,819	14,015
水道光熱費	6,990	6,875
会議費用	2,313	1,966
固定資産減価償却費	50,257	42,509
諸経費	99,400	127,343
一般管理費合計	2,878,997	3,035,180
営業利益又は営業損失（ ）	79,297	614,002
営業外収益		
受取利息	1,472	920
その他営業外収益	909	1,130
営業外収益合計	2,381	2,051
営業外費用		
支払利息	469	246
為替差損	66,842	52,600
営業外費用合計	67,312	52,847
経常利益又は経常損失（ ）	14,367	563,206
特別利益		
株式報酬戻入益	15,364	218,337

特別利益合計	15,364	218,337
特別損失		
割増退職金	3,142	1,345
固定資産除却損	760	-
特別損失合計	3,902	1,345
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	25,829	780,198
法人税、住民税及び事業税	61,665	87,787
当期純利益又は当期純損失()	35,836	692,411

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位:千円)

第16期 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)								
	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,609,500	284,184	-	284,184	945,375	945,375	948,308	948,308
当期変動額								
当期純利益又は 当期純損失()	-	-	-	-	35,836	35,836	35,836	35,836
資本準備金からその他 資本剰余金への振替	-	284,184	284,184	-	-	-	-	-
その他資本剰余金から 資本準備金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-
その他資本剰余金から 繰越利益剰余金への振替	-	-	284,184	284,184	284,184	284,184	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	284,184	-	284,184	248,348	248,348	35,836	35,836
当期末残高	1,609,500	-	-	-	697,027	697,027	912,472	912,472

(単位:千円)

第17期 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)								
	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,609,500	-	-	-	697,027	697,027	912,472	912,472
当期変動額								
当期純利益又は 当期純損失()	-	-	-	-	692,411	692,411	692,411	692,411
資本準備金からその他 資本剰余金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-

その他資本剰余金から 資本準備金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-
その他資本剰余金から 繰越利益剰余金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	692,411	692,411	692,411	692,411
当期末残高	1,609,500	-	-	-	4,616	4,616	1,604,883	1,604,883

注記事項

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	該当事項はありません。
2. 固定資産の減価償却の方法	(1)有形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 (2)無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への 換算基準	外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
4. 引当金の計上基準	賞与引当金 従業員に対し支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。
5. リース取引の処理方法	リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
6. その他財務諸表作成のための基本となる 重要な事項	(1)消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。 (2)連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。

（表示方法の変更）

前事業年度まで、コンサルティング契約に基づく報酬は、すべて契約の名称に従いコンサルティング報酬として おりました。 当事業年度より、契約の名称がコンサルティング契約でも実質的には投資助言契約である契約については、その 報酬を投資助言報酬とした方がより適切であると判断したため、以下の通り、表示方法を変更しております。	
1. 貸借対照表	「未収投資助言報酬」は、「未収コンサルティング報酬」（前事業年度98,750千円）の一部に含めておりましたが、「未収投資助言報酬」（当事業年度101,721千円）の一部としております。
2. 損益計算書	「投資助言報酬」は、「コンサルティング報酬」（前事業年度512,158千円）の一部に含めておりましたが、「投資助言報酬」（当事業年度452,898千円）の一部としております。

（貸借対照表関係）

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
*1 有形固定資産の減価償却累計額	*1 有形固定資産の減価償却累計額

建物付属設備	89,120千円	建物付属設備	105,584千円
器具備品	127,196千円	器具備品	132,672千円
*2 関係会社項目		*2 関係会社項目	
長期貸付金	166,000千円	短期貸付金	166,000千円
短期貸付金	300,000千円	その他未払金	223,231千円
その他未払金	158,400千円		
*3 偶発債務		*3 偶発債務	
<p>当社は海外関係会社との取引に関して、租税条約の規定に基づき、権限ある当局間の相互協議を申し立てております。この協議により生じる可能性がある影響額を合理的に見積もることは困難であります。なお、当該事象による影響は、当事業年度の財務諸表には反映しておりません。</p>		同左	

(損益計算書関係)

第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日	第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日					第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日				
発行済株式の種類及び総数に関する事項					発行済株式の種類及び総数に関する事項				
株式の種類	当期首 株式数 (株)	当期増加 株式数 (株)	当期減少 株式数 (株)	当期末 株式数 (株)	株式の種類	当期首 株式数 (株)	当期増加 株式数 (株)	当期減少 株式数 (株)	当期末 株式数 (株)
発行済株式					発行済株式				
普通株式	34,090	-	-	34,090	普通株式	34,090	-	-	34,090
合計	34,090	-	-	34,090	合計	34,090	-	-	34,090

(リース取引関係)

第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日	第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日
注記すべきリース取引を行っていないため、該当事項はありません。	同左

(金融商品関係)

<p>1. 金融商品の状況に関する事項</p> <p>(1) 金融商品に対する取組方針 当社は、資金運用については預金等に限定し、また、必要な資金については親会社であるフランク・ラッセル・カンパニーより調達しております。デリバティブに該当する事項はありません。</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制 当社が保有する金融資産は、主として預金、国内の取引先に対する未収委託者報酬及び未収運用受託報酬であり、取引先の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、ファイナンス&コーポレート・サービス部において取引先ごとの期日管理及び残高管理を行う体制としております。 未払金は、短期間で決済されております。未払金には、外貨建てのものが含まれており、為替変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、ファイナンス&コーポレート・サービス部においてリスク管理及び残高管理を行う体制としております。</p>																																											
<p>2. 金融商品の時価等に関する事項</p> <p>平成25年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。</p> <p style="text-align: center;">(単位：千円)</p>		<p>2. 金融商品の時価等に関する事項</p> <p>平成26年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。</p> <p style="text-align: center;">(単位：千円)</p>																																									
	貸借対照表 計上額()	時価()	差額		貸借対照表 計上額()	時価()	差額																																				
(1) 預金	1,054,936	1,054,936	-	(1) 預金	1,829,172	1,829,172	-																																				
(2) 未収委託者報酬	355,246	355,246	-	(2) 未収委託者報酬	369,328	369,328	-																																				
(3) 未収運用受託報酬	969,086	969,086	-	(3) 未収運用受託報酬	1,225,413	1,225,413	-																																				
(4) 短期貸付金	300,000	300,000	-	(4) 未払金	(765,850)	(765,850)	-																																				
(5) 未払金	(694,677)	(694,677)	-	() 負債に計上されているものについては、()で示しております。																																							
() 負債に計上されているものについては、()で示しております。				() 負債に計上されているものについては、()で示しております。																																							
<p>(注1) 金融商品の時価の算定方法 (1) 預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、(4) 短期貸付金、並びに(5) 未払金 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。</p> <p>(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額</p> <p style="text-align: center;">(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年以内</th> <th>1年超 5年以内</th> <th>5年超</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 預金</td> <td>1,054,936</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2) 未収委託者報酬</td> <td>355,246</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3) 未収運用受託報酬</td> <td>969,086</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(4) 短期貸付金</td> <td>300,000</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					1年以内	1年超 5年以内	5年超	(1) 預金	1,054,936	-	-	(2) 未収委託者報酬	355,246	-	-	(3) 未収運用受託報酬	969,086	-	-	(4) 短期貸付金	300,000	-	-	<p>(注1) 金融商品の時価の算定方法 (1) 預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、並びに(4) 未払金 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。</p> <p>(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額</p> <p style="text-align: center;">(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年以内</th> <th>1年超 5年以内</th> <th>5年超</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 預金</td> <td>1,829,172</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2) 未収委託者報酬</td> <td>369,328</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3) 未収運用受託報酬</td> <td>1,225,413</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					1年以内	1年超 5年以内	5年超	(1) 預金	1,829,172	-	-	(2) 未収委託者報酬	369,328	-	-	(3) 未収運用受託報酬	1,225,413	-	-
	1年以内	1年超 5年以内	5年超																																								
(1) 預金	1,054,936	-	-																																								
(2) 未収委託者報酬	355,246	-	-																																								
(3) 未収運用受託報酬	969,086	-	-																																								
(4) 短期貸付金	300,000	-	-																																								
	1年以内	1年超 5年以内	5年超																																								
(1) 預金	1,829,172	-	-																																								
(2) 未収委託者報酬	369,328	-	-																																								
(3) 未収運用受託報酬	1,225,413	-	-																																								

(有価証券関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
1. その他有価証券で時価のあるもの 該当事項はありません。	1. その他有価証券で時価のあるもの 該当事項はありません。

2. 当期中に売却したその他有価証券 注記すべき有価証券の売却取引を行っていないため、 該当事項はありません。	2. 当期中に売却したその他有価証券 同左
---	--------------------------

(デリバティブ取引関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(退職給付関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
1. 採用している退職給付制度の概要 退職一時金規程に基づく退職一時金制度と企業型年金規約に基づく確定拠出年金制度を採用しております。	1. 採用している退職給付制度の概要 退職一時金規程に基づく退職一時金制度と企業型年金規約に基づく確定拠出年金制度を採用しております。なお当社が有する退職一時金制度は、簡便法により長期未払金及び退職給付費用を計上しております。
2. 退職給付債務に関する事項 (単位：千円) 長期未払金 663,388 その他未払金 19,915	2. 退職一時金制度 (単位：千円) (1) 長期未払金の当期首残高と当期末残高の調整表 長期未払金の当期首残高 663,388 退職給付費用 103,956 退職給付の支払額等 45,966 長期未払金の当期末残高 721,379
3. 退職給付費用の内訳 (単位：千円) (1) 勤務費用 116,229 (2) 確定拠出年金制度への掛金拠出額 43,293 159,522	(2) 退職給付費用 (単位：千円) 簡便法で計算した退職給付費用 103,956 3. 確定拠出制度 (単位：千円) 確定拠出制度への要拠出額 42,931

(ストック・オプション等関係)

第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日	第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日
1. ストック・オプション等に係る当事業年度における費用計上額及び科目名 賞与 175,993 千円	1. ストック・オプション等に係る当事業年度における費用計上額及び科目名 賞与 329,041 千円
2. ストック・オプション等の内容 当社は、親会社であるフランク・ラッセル・カンパニーの株式報酬プランに基づき当社の従業員等が受領する株式報酬にかかる費用を負担しておりますが、これらの費用については、「ストック・オプション等に関する会計基準」（企業会計基準第8号 平成17年12月27日）及び「ストック・オプション等に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第11号 平成18年5月31日）に準じた方法により会計処理をしております。	2. ストック・オプション等の内容 同左

3.ストック・オプション等に係る権利不行使による失効により利益として計上した金額	3.ストック・オプション等に係る権利不行使による失効により利益として計上した金額
株式報酬戻入益 15,364 千円	株式報酬戻入益 218,337 千円

(税効果会計関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 (単位：千円)	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 (単位：千円)
繰延税金資産	繰延税金資産
税務上の繰越欠損金 544,590	税務上の繰越欠損金 375,092
未払費用 177,473	未払費用 180,523
賞与引当金 154,437	賞与引当金 156,758
資産除去債務 32,508	資産除去債務 34,706
長期未払金 236,431	長期未払金 257,099
長期未払費用 136,224	長期未払費用 4,935
その他 4,306	その他 14,290
繰延税金資産合計 1,285,973	繰延税金資産合計 1,023,407
評価性引当額 1,285,973	評価性引当額 1,023,407
繰延税金資産の純額 0	繰延税金資産の純額 0
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳
法定実効税率 38.01% (調整)	法定実効税率 38.01% (調整)
交際費等永久に損金に算入されない項目 173.66%	交際費等永久に損金に算入されない項目 7.18%
住民税均等割 8.86%	住民税均等割 0.11%
その他 18.21%	評価性引当額の増減 24.93%
税効果会計適用後の法人税等の負担率 238.74%	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 8.72%
	その他 0.40%
	税効果会計適用後の法人税等の負担率 11.25%
3. 法人税等の変更等による影響 該当事項はありません。	3. 法人税等の変更等による影響 「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は平成27年1月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については従来の38.01%から35.64%になります。

(資産除去債務関係)

第16期 平成25年12月31日現在	第17期 平成26年12月31日現在

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの	
1. 当該資産除去債務の概要 建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。	
2. 当該資産除去債務の金額の算定方法 使用可能期間を10年8ヶ月と見積もり、割引率は1.395%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。	
3. 当該資産除去債務の総額の増減	3. 当該資産除去債務の総額の増減 当事業年度において、資産の除却時点において必要とされる除却費用が、当初の見積額を超過する見込みであることが明らかになったことから、見積もりの変更による増加額を0.525%で割り引き、変更前の資産除去債務残高に7,857千円加算しております。資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。
(単位：千円)	
当期首残高	60,263
時の経過による調整額	840
見積りの変更による増加額	-
当期末残高	61,104
(単位：千円)	
当期首残高	61,104
時の経過による調整額	852
見積りの変更による増加額	7,857
当期末残高	69,813

(セグメント情報等)

第16期 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)					
1. セグメント情報 当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っております。上記の他に、資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を行っております。当社は投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業及びこれらの附帯業務並びに資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。 従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。					
2. 関連情報					
(1) 製品及びサービスごとの情報					
(単位：千円)					
	投資信託業	投資一任業	投資助言業	その他	合計
外部顧客への営業収益	1,421,153	3,297,966	575,846	347,835	5,642,801
(2) 地域ごとの情報					
営業収益 本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。					
有形固定資産 本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。					
(3) 主要な顧客ごとの情報					
(単位：千円)					
顧客の名称又は氏名	営業収益		関連するセグメント		
A社 ()	2,019,323		投資一任業・投資助言業		

() A社との間で守秘義務契約を負っているため、社名の公表は控えております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報
該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報
該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報
該当事項はありません。

第17期
(自 平成26年 1月 1日
至 平成26年12月31日)

1. セグメント情報
当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用(投資運用業)を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っております。上記の他に、資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を行っております。当社は投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業及びこれらの附帯業務並びに資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。

従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託業	投資一任業	投資助言業	その他	合計
外部顧客への営業収益	1,294,270	4,406,893	576,336	541,505	6,819,006

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント
A社()	2,753,278	投資一任業・投資助言業

() A社との間で守秘義務契約を負っているため、社名の公表は控えております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報
該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報
該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報
該当事項はありません。

(関連当事者情報)

第16期(自平成25年1月1日 至平成25年12月31日)

1. 関連当事者との取引

親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の内容	議決権等 の被所有 割合	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上の関係				
親会社	フランク・ラッセル・カンパニー	アメリカ合衆国、ワシントン州シアトル市	394 百万 ドル	年金コンサル ティング、投資顧 問	間接所有 100%	兼任 0人	インベストメン ト・マネジメン ト・アグリーメ ント、業務委託 契約の締結	貸付金 の回収	500,000	短期 貸付金 長期 貸付金	300,000 166,000

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

ラッセル・インベストメント・グループ(株)（非上場）

フランク・ラッセル・カンパニー（非上場）

(2) 重要な関連会社

該当事項はありません。

第17期（自平成26年1月1日 至平成26年12月31日）

1. 関連当事者との取引

親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の内容	議決権等 の被所有 割合	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上の関係				
親会社	ラッセル・インベストメント・グループ(株)	東京都港区赤坂	356 百万円	持株会社	直接所有 100%	兼任 5人	連結納税	法人税 の支払	63,199	未払金	49,997
親会社	フランク・ラッセル・カンパニー	アメリカ合衆国、ワシントン州シアトル市	-	年金コンサル ティング、投資顧 問	間接所有 100%	兼任 0人	インベストメン ト・マネジメン ト・アグリーメ ント、業務委託 契約の締結	貸付金 の回収	300,000	短期 貸付金	166,000
								営業費 用及び 一般管 理費	1,352,937	未払金	173,234

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

ラッセル・インベストメント・グループ(株)（非上場）

フランク・ラッセル・カンパニー（非上場）

ロンドン証券取引所グループ（ロンドン証券取引所）

(2) 重要な関連会社

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	第16期 自平成25年1月1日 至平成25年12月31日	第17期 自平成26年1月1日 至平成26年12月31日
1株当たり純資産額	26,766.57円	1株当たり純資産額 47,077.84円
1株当たり当期純損失（ ）	1,051.23円	1株当たり当期純利益 20,311.26円
損益計算書上の当期純損失（ ）	35,836千円	損益計算書上の当期純利益 692,411千円
1株当たり当期純損失（ ）の算定に用いられた普通株式に関する当期純損失（ ）	35,836千円	1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式に関する当期純利益 692,411千円

差額	-	差額	-
期中平均株式数		期中平均株式数	
普通株式	34,090株	普通株式	34,090株
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失（ ）であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(重要な後発事象)

第16期 自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日	第17期 自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

中間財務諸表

(1)中間貸借対照表

(単位：千円)

第18期中間会計期間末
(平成27年6月30日現在)

資産の部

流動資産

預金		1,588,918
前払費用		59,413
未収委託者報酬		437,146
未収運用受託報酬		1,259,280
未収投資助言報酬		95,482
短期貸付金		166,000
その他流動資産		41,329
流動資産計		3,647,571

固定資産

有形固定資産

建物付属設備		107,743
器具備品		44,216
有形固定資産計	*2	151,960

無形固定資産

ソフトウェア		2,894
無形固定資産計		2,894

投資その他の資産

長期差入保証金		152,730
投資その他の資産計		152,730

固定資産計

固定資産計		307,585
-------	--	---------

資産合計

資産合計		3,955,156
------	--	-----------

(単位：千円)

第18期中間会計期間末
(平成27年6月30日現在)

負債の部

流動負債

預り金		26,183
未払金		

未払手数料		52,936
未払委託調査費		586,752
その他未払金		253,168
未払金計		892,857
未払費用		71,928
未払法人税等		11,131
前受金		73,523
賞与引当金		242,003
リース債務		1,929
その他流動負債	*1	100,362
流動負債計		1,419,920
固定負債		
資産除去債務		70,265
長期未払金		738,457
長期リース債務		3,081
長期未払費用		13,876
固定負債計		825,681
負債合計		2,245,602
純資産の部		
株主資本		
資本金		1,609,500
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		100,054
利益剰余金合計		100,054
株主資本計		1,709,554
純資産合計		1,709,554
負債純資産合計		3,955,156

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	第18期中間会計期間 (自 平成27年1月 1日 至 平成27年6月30日)
営業収益	
委託者報酬	721,806
運用受託報酬	2,279,479
投資助言報酬	272,873
その他収益	209,445
営業収益計	3,483,604
営業費用	
支払手数料	87,282
広告宣伝費	360
調査費	
委託調査費	1,796,783
図書費	856
調査費計	1,797,639
委託計算費	34,393
営業雑経費	
通信費	4,548

印刷費		6,355
協会費		6,665
営業雑経費計		17,569
営業費用計		1,937,244
一般管理費		
給料		
役員報酬		23,287
給料・手当		536,072
賞与		17,376
賞与引当金繰入額		242,003
給料計		818,740
福利厚生費		89,215
交際費		5,250
寄付金		1,200
旅費交通費		17,609
租税公課		9,137
不動産賃借料		87,565
退職給付費用		79,435
消耗器具備品費		173,684
事務委託費		20,883
修繕費		4,120
水道光熱費		3,184
会議費用		3,329
固定資産減価償却費	*1	18,204
諸経費		63,427
一般管理費計		1,394,988
営業利益		151,371
営業外収益		
受取利息		543
その他営業外収益		1,955
営業外収益計		2,498
営業外費用		
支払利息		81
為替差損		7,869
営業外費用計		7,950
経常利益		145,919
特別損失		
割増退職金		29,067
特別損失計		29,067
税引前中間純利益		116,852
法人税、住民税及び事業税		12,181
中間純利益		104,670

(3) 中間株主資本等変動計算書

(単位:千円)

第18期中間会計期間 (自 平成27年1月 1日 至 平成27年6月30日)
--

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	1,609,500	4,616	4,616	1,604,883	1,604,883
当中間期変動額					
中間純利益又は 中間純損失（ ）	-	104,670	104,670	104,670	104,670
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	104,670	104,670	104,670	104,670
当中間期末残高	1,609,500	100,054	100,054	1,709,554	1,709,554

注記事項

（重要な会計方針）

1. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 (2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
2. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
3. 引当金の計上基準	賞与引当金 従業員に対し支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。
4. リース取引の処理方法	リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
5. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。 (2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。

（中間貸借対照表関係）

第18期中間会計期間末 (平成27年6月30日現在)	
*1 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、その他流動負債に含めて表示しております。	
*2 有形固定資産の減価償却累計額	254,938 千円

*3 偶発債務

当社は海外関係会社との取引に関して、租税条約の規定に基づき、権限ある当局間の相互協議を申し立てております。この協議により生じる可能性がある影響額を合理的に見積もることは困難であります。なお、当該事象による影響は、当中間会計期間の中間財務諸表には反映しておりません。

(中間損益計算書関係)

第18期中間会計期間 (自 平成27年1月 1日 至 平成27年6月30日)		
*1 減価償却実施額	有形固定資産	16,848 千円
	無形固定資産	1,355 千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

第18期中間会計期間 (自 平成27年1月 1日 至 平成27年6月30日)				
発行済株式の種類及び総数に関する事項				
株式の種類	当事業年度期首 株式数 (株)	当中間会計期間 増加株式数 (株)	当中間会計期間 減少株式数 (株)	当中間会計期間末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	34,090	-	-	34,090
合計	34,090	-	-	34,090

(リース取引関係)

第18期中間会計期間 (自 平成27年1月 1日 至 平成27年6月30日)	
該当事項はありません。	

(金融商品関係)

第18期中間会計期間末 (平成27年6月30日現在)			
金融商品の時価等に関する事項			
平成27年6月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。			
(単位 : 千円)			
	中間貸借対照表計上額 ()	時価 ()	差額
(1) 預金	1,588,918	1,588,918	-
(2) 未収委託者報酬	437,146	437,146	-
(3) 未収運用受託報酬	1,259,280	1,259,280	-
(4) 未払金	(858,978)	(858,978)	-

() 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注) 金融商品の時価の算定方法

(1)預金、(2)未収委託者報酬、(3)未収運用受託報酬、並びに(4)未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(有価証券関係)

第18期中間会計期間末
(平成27年6月30日現在)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

第18期中間会計期間末
(平成27年6月30日現在)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

第18期中間会計期間
(自 平成27年1月 1日
至 平成27年6月30日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

第18期中間会計期間末
(平成27年6月30日現在)

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当中間会計期間における当該資産除去債務の総額の増減

当事業年度期首残高	69,813	千円
時の経過による調整額	451	千円
当中間会計期間末残高	70,265	千円

(セグメント情報等)

第18期中間会計期間
(自 平成27年1月 1日
至 平成27年6月30日)

1. セグメント情報

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用(投資運用業)を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っております。上記の他に、資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を行っております。当社は投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業及びこれらの附帯業務並びに資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。

従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1)製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	投資信託業	投資一任業	投資助言業	その他	合計
外部顧客への営業収益	721,806	2,279,479	272,873	209,445	3,483,604

(2)地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント
A社()	1,314,587	投資一任業・投資助言業

() A社との間で守秘義務契約を負っているため、社名の公表は控えております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

第18期中間会計期間 (自 平成27年1月 1日 至 平成27年6月30日)	
1株当たり純資産額	50,148.25円
1株当たり中間純利益	3,070.41円
中間損益計算書上の中間純利益	104,670千円
1株当たり中間純利益の算定に用いられた普通株式に関する中間純利益	104,670千円
差額	-
期中平均株式数	
普通株式	34,090株
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(重要な後発事象)

第18期中間会計期間 (自 平成27年1月 1日 至 平成27年6月30日)	
該当事項はありません。	

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、金融商品取引法の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下、において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記、に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

(1)定款の変更、事業譲渡または事業譲受

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の特別決議が必要です。

委託会社はその事業の全部または一部を譲渡するときは、当該期日の1ヵ月前までにその旨を公告して監督官庁に届け出るとともに、すべての営業所の公衆の目に付きやすい場所に掲示したうえ、当該期日から30日以内にその旨を監督官庁に届け出ます。

(2)訴訟その他の重要事項

委託会社および当ファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実は発生していません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1)受託会社

（平成27年9月末現在）

(a)名称	(b)資本金の額	(c)事業の内容
三菱UFJ信託銀行株式会社 （再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

(2)販売会社

（平成27年9月末現在）

(a)名称	(b)資本金の額	(c)事業の内容
静銀ティーエム証券株式会社	3,000百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
常陽証券株式会社	3,000百万円	
高木証券株式会社	11,069百万円	
株式会社SBI証券	47,937百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	
株式会社東京スター銀行	26,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
株式会社東和銀行	38,653百万円	

(3)外部委託先運用会社（「Aコース（米ドル円ヘッジ）」およびマザーファンド）

（平成26年12月末現在）

(a)名称	(b)資本金の額	(c)事業の内容
ラッセル・インプリメンテーション・サービシズ・インク	24,780米ドル	金融商品取引法に定める外国の法令に準拠して設立された法人として、外国において投資運用業等を営んでいます。

2【関係業務の概要】

(1)受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

《再信託受託会社の概要》

名称：日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金の額：10,000百万円（平成27年9月末現在）

事業内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託業務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本マスタートラスト信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

(2)販売会社

当ファンドの販売会社として、募集・販売の取扱いを行い、一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行います。

(3)外部委託先運用会社

委託会社との契約により、「Aコース（米ドル円ヘッジ）」については為替ヘッジに関し、またマザーファンドについては株式等の運用に関し、委託会社から運用の指図に関する権限の委託を受け、「Aコース（米ドル円ヘッジ）」およびマザーファンドの運用指図を行います。

3【資本関係】

ラッセル・インベストメント・グループ株式会社は、委託会社の全株を保有し、同社はフランク・ラッセル・カンパニーの実質的な子会社です。

ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ・インクは、フランク・ラッセル・カンパニーの子会社です。

第3【その他】

- (1) 目論見書の表紙にファンドのロゴ・マークやキャッチ・コピー等を表示し、イラスト、写真、図案等を採用することがあります。また、目論見書の裏表紙に委託会社のロゴ・マークを表示することがあります。
- (2) 交付目論見書の表紙または表紙裏面の記載について
「投資信託説明書（交付目論見書）」と記載します。
金融商品取引法上の目論見書である旨を記載します。
交付目論見書の使用開始日を記載します。
委託会社に関する情報として、委託会社の名称、金融商品取引業者登録番号、設立年月日、資本金、投資信託財産の合計純資産総額、「ファンドの運用の指図を行う者である。」旨および照会先（ホームページアドレス、電話番号および受付時間等）を記載します。
受託会社に関する情報として、受託会社の名称および「ファンドの財産の保管及び管理を行う者である。」旨を記載します。
請求目論見書の入手方法を記載します。
届出の効力に関する事項について記載します。
以下の事項を記載します。
 - ・商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する旨。
 - ・投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - ・請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨および当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきである旨
 - ・「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載ファンドの管理番号等を記載することがあります。
- (3) 交付目論見書の裏表紙に金融商品取引法第37条の3の規定に基づく契約締結前書面に関する事項を記載することがあります。
- (4) 請求目論見書の表紙に「投資信託説明書（請求目論見書）」と記載するとともに、委託会社の名称、金融商品取引上の目論見書である旨を記載します。
- (5) 請求目論見書の表紙裏に金融商品の販売等に関する法律にかかる重要事項を記載することがあります。
- (6) 請求目論見書の巻末に信託約款を掲載します。
- (7) 届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について、投資者の理解を助けるため、交付目論見書で当該内容を説明した図表等を付加して当該内容に関連する箇所に記載することがあります。
- (8) 目論見書は電子媒体等として使用されるほか、インターネットなどに掲載されることがあります。

独立監査人の監査報告書

平成27年3月26日

ラッセル・インベストメント株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 男澤 顕
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているラッセル・インベストメント株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの第17期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ラッセル・インベストメント株式会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年1月13日

ラッセル・インベストメント株式会社
取締役会 御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 男 澤 顕
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース（米ドル円ヘッジ）の平成27年6月4日から平成27年12月3日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ラッセル新興国増配優良株ファンド Aコース（米ドル円ヘッジ）の平成27年12月3日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

ラッセル・インベストメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年1月13日

ラッセル・インベストメント株式会社
取締役会 御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 男 澤 顕
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース（為替ヘッジなし）の平成27年6月4日から平成27年12月3日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ラッセル新興国増配優良株ファンド Bコース（為替ヘッジなし）の平成27年12月3日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

ラッセル・インベストメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

() 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成27年9月24日

ラッセル・インベストメント株式会社
取締役会御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 男澤 顕
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているラッセル・インベストメント株式会社の平成27年1月1日から平成27年12月31日までの第18期事業年度の中間会計期間（平成27年1月1日から平成27年6月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ラッセル・インベストメント株式会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成27年1月1日から平成27年6月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。